ノース ウイング

KITAKU

vol.24・25

区制50周年記念号

CONTENTS

つなぐ　人や地域をつなぐ〝いま〟の世代
寄り添う　北区の自然をはぐくみ、守る人たち
語り継ぐ　先人の記憶を今に伝える語り部たち
見つめる　地域を気にかけ、まちを見守る人たち
先導する　地域マネジメントを先導するリーダーたち
ふりまく　街中に活気をふりまく〝つぎ〟の世代

まちづくりの種

CONTENTS

— 目次

01 つなぐ～人や地域をつなぐ “いま”の世代

しのろ紙袋ランターンまつり	遠藤　愛美	01-02
出張・暮らしの保健室	大久保　彩織	03-04
新琴似音楽祭	斉藤　純	05-06
コミュニティカフェ 麻生キッチンりあん	西本　香奈江	07
ノースウイングバックナンバーより①		08

02 寄り添う～北区の自然をはぐくみ、守る人たち

百合が原花壇を造り隊	熊谷　ゆき	09-10
札幌市立屯田北中学校　科学部		11-12
新川地区緑化推進協議会	布施　鎬次	13
ノースウイングバックナンバーより②		14

03 語り継ぐ～先人の記憶を今に伝える語り部たち

新琴似新聞	大平　勲	15-16
拓北・あいの里地区 民生委員・児童委員	加藤　隆治	17-18
新琴似屯田兵中隊本部保存会	平井　勇光	19
ノースウイングバックナンバーより③		20

04 見つめる～地域を気にかけ、まちを見守る人たち

幌北健康リズム会	新枝　百合子	21-22
屯田社会福祉協議会	田尻　芳博	23
日赤奉仕団幌北分団	五十嵐　秀子	24
篠路茨戸健康づくりの会	三澤　禎一	25
鉄西地区社会福祉協議会	小森　雅夫	25
福祉団体ひまわりの会	北澤　豊	26
新川さくら並木連合町内会・地区社会福祉協議会など	佐久間　五十也	26
新琴似西地区民生委員・児童委員協議会	石尾　勝子	27
屯田地区自主防災組織 屯友会		27
麻生連合町内会・麻生社会福祉協議会	田中　巌	28
ひまわり連合自治会防災会	大坂　登／大野　毅	28
札幌子ども会育成連合会北区支部など	佐藤　欣一	29
ノースウイングバックナンバーより④		29-30

05 先導する～地域マネジメントを先導するリーダーたち

鉄西連合町内会	石田　悦郎	31-32
新川さくら並木連合町内会　交通安全部	岡本　しのぶ	33
太平百合が原交通安全母の会	庵跡　邦子	34
拓北・あいの里連合町内会	長尾　由紀子	35
ノースウイングバックナンバーより⑤		36

06 ふりまく～街中に活気をふりまく“つぎ”の世代

市立札幌豊明高等支援学校	37-38
札幌創成高等学校　太鼓部	39-40
SIT Band - 札幌国際情報高校吹奏楽部	41-42
ノースウイングバックナンバーより⑥	43

CASE.01
Town planning in North

しのろ紙袋ランターンまつり

JR篠路駅の高架化によって、変わるまちに賑わいを。まつりを通して「絆」の輪を広げたい。

現在、JR篠路駅周辺では鉄道を立体（高架）化し、踏切をなくすことでスムーズな交通の実現とまちの活性化を図る事業が進められています。これに伴い、駅東口を中心に区画整理や周辺の道路整備なども行われ、地域の交流拠点にふさわしいまちづくりを推進する動きが活発に。一方で、地域主体のまちづくり活動やイベントをいかにして実現し、まちににぎわいを創出するかという課題も浮き彫りになりました。

そこで「篠路まちづくりワークショップ」のメンバーらが着目したのは、2016年から篠路コミュニティセンターの敷地内で開催されていた「しのろ紙袋ランターンまつり」。手作りした紙袋のランターンに火をともし、冬空を彩る幻想的なイベントです。これを駅前で開催すれば、多くの人が集い、まちがにぎわうきっかけになるのではというアイデアから準備がスタート。

2023年の冬も残念ながら中止となりましたが2024年の冬こそ4年ぶりの開催を目指します。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

みんな地元愛が強く、下町のような近所付き合いも残る人情あふれるエリア。とにかく温かいまちです。お薦めのスポットは「篠路五戸の森緑地」。地域の子どもたちは、探検学習などで必ず訪れる場所です。住宅街にありながら、豊かな自然が残る篠路のオアシス。

「しのろ紙袋ランターンまつり」実行委員会
委員長　遠藤（えんどう） 愛美（まなみ） さん

札幌市北区篠路生まれの篠路育ち。大学卒業後、信用金庫に入庫。夫と二人暮らし。

「篠路地区が大きく変わる、この変革期をチャンスと捉えて、幅広い世代が集う場や機会を創出したい」。そう語るのは「しのろ紙袋ランターンまつり」の実行委員長を務める遠藤愛美さん。「若い世代にまちづくりを担ってもらいたいということで引き受けた大役ですが、最初は分からないことだらけでした。周りの人たちに教わりながら、少しずつ自分の役割を果たせるようになってきたかな、と思ったところにコロナ禍。祭りは3年間中止を余儀なくされました」。

地域の子どもたちがお祭りと関わるきっかけづくりも遠藤さんの大切な仕事です。「授業でランターンの制作体験をしてもらったり、まちづくりの活動についてお話しをする機会をいただいたり…学校側の協力なくして実現できないことばかりなので、感謝の気持ちでいっぱいです」。こうした活動によって、初めてお祭りのことを知る子どもも多いと言います。「ランターン作りやボランティアに参加した思い出がいつか地域をつなぐ絆になるはず」。職場の理解や、コミュニティセンターの職員として働くお母さんの支えも活動の後押しに。「また状況が落ち着いたら、祭りの開催を心待ちにしている人たちのために、頑張ります！」と笑顔で語ってくれました。

しのろ紙袋ランターンまつり
問い合わせ／篠路コミュニティセンター
北区篠路3条8丁目11-1
TEL.011-771-3700
※2023年は中止が決定。

新型コロナウイルス感染症拡大前の2020年冬に開催された祭りでは、約2000個もの紙袋ランターンがまちを彩りました

CASE.01
Town planning in North

出張・暮らしの保健室

暮らしの中に医療とつながる場所を。ルールも時間の制限もなく、ただ地域の人たちの声に耳を傾けるために、会いに行く。

まちの病院やクリニックには「内科」「外科」「小児科」などの診療科目が掲げられているところがほとんどです。家庭医療専門医（以下家庭医）とは、このような臓器別や年齢などの区切りではなく、よくある疾患に優先順位をつけ、その人や家族の背景も含めて診療する医師のこと。家庭医の資格を持つ医師は全国にわずか1000人余りと少ない一方、高齢化が進み、複数の疾患を持つ患者が増える中、家庭医の存在はますます重要になりつつあります。例えば要介護状態となっても、住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けることができるように地域内で助け合う「地域包括ケアシステム」の体制づくりにおいても、家庭医が担う役割は大きいといわれています。

区内のカフェで不定期に開催している「出張・暮らしの保健室」には、待つだけではなく、自ら地域に出ることで「患者になる前の地域の人々とともにありたい」と奔走する、家庭医の姿がありました。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

「エルムトンネル」の上の木陰をジョギングしたり、北大の獣医学部が飼育する動物たちを見たり、都市の真ん中に豊かな自然がたくさん残っていることが、とてもうれしいです。また複数の大学がある文教地区で、若者や市外からの人の出入りもあり、いつも新しい風を感じられる地域だと思います。

日本プライマリ・ケア連合学会認定
家庭医療専門医・指導医　大久保（おおくぼ） 彩織（さおり） さん

北見市留辺蘂町出身。2008年札幌医科大学医学部医学科卒。二児の母。

一般的にお医者さんと向き合うのは、自分や家族の病気を疑い、病院を受診した時などに限られています。「医療は病院受診から」。そんなイメージを持つ人も少なくないはず。「医療や健康の問題は、病院で待っているだけでは手が届かない部分も多く、もっと病院の外に出てケアができたら…という思いはずっとありました。薬では治療ができない病を抱えている人もいますし、地域にそういう人たちの安心につながる場所があったらいいなと思ったのが、今の活動につながっています」。そう話すのは家庭医の大久保さんです。

「出張・暮らしの保健室」では、さまざまな人たちの健康相談に耳を傾けています。セカンドオピニオンはもちろんのこと、家族を亡くした後のグリーフのような語り、妊婦さんからの相談…と内容は多岐にわたります。加えて、たまたま隣の席でお茶を飲んでいた偶然から、ほんの少し身体のことや健康のことに想いをはせる時間を持ってもらえることもカフェで行うメリットなのだとか。「暮らしの中に医療とつながる場所をつくり、さまざまな社会的処方（※）によって、気が付いたら地域や社会が健康になっている、そんなきっかけになれたらうれしいですね」。

出張・暮らしの保健室
開催日程は下記ホームページで確認を。
http://www.mintaru.com/
（フェアトレード雑貨＆レストラン「みんたる」）

（※）ストレスや孤立などを感じている人に対して、医師が薬の代わりにその人の好きなことや特技を生かして役割が生まれるようなコミュニティの資源を紹介することで、生きがいや社会参加の機会を持ってもらう方法のこと。

大久保さんが非常勤で勤務する「ファミリークリニックさっぽろ山鼻」で行われている家庭医カンファレンスの様子
「出張・暮らしの保健室」での出会いを通して医療機関や他職種とのコーディネートなどを行う役割も担っています

CASE.01
Town planning in North

新琴似音楽祭

音楽祭や番組制作を通して新琴似の魅力を発信。地域への誇りや愛着を深めたい。

「新琴似歌舞伎」や「新琴似太鼓保存会」など新琴似は文化活動が活発な町。1996年からは新琴似連合町内会や商店街の尽力のもと、YOSAKOIソーラン祭りの新琴似会場もスタート。初夏の風物詩として地域を盛り上げています。

このように文化振興に力を注ぐ新琴似で、地域住民が自ら作る文化イベントとして2015年に立ち上がったのが「新琴似音楽祭」です。「音楽で新琴似を元気に」がコンセプトの野外音楽フェスは、新琴似地区に住んでいることを誇りに感じてもらいたいという、シビックプライドの芽生えにも期待が高まるイベントです。

2020年以降、コロナ禍で町内のイベントが次々と中止になる中、新琴似音楽祭は無観客で開催。YouTube配信という新たな試みで音楽を届け続けました。3年ぶりの有観客ライブとなった2022年は、延べ約2000人が来場。晴天の中で、思い思いに音楽を楽しみました。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

新琴似に長く暮らす私にとって、最も心安らぐ場所が「安春川」です。子どもの頃から遊び場として数え切れないほど通った場所で、思い出もたくさん詰まっています。散歩コースとしても親しまれていて、春になると川沿いの桜が満開になり、夏は水遊びができる地域の自慢のスポットです。

YOSAKOIソーラン祭り新琴似会場実行委員会事務局長
新琴似音楽祭実行委員会 副実行委員長
しんことにテレビ 副代表
斉藤（さいとう） 純（じゅん） さん

新琴似歴は45年以上。イベントの開催や番組作りなど、地域への思いを原動力に楽しみながら日々奔走中。

「地域活動と聞くと、草刈りや清掃活動などを想像する人が多いと思います。けれど、新琴似ではYOSAKOIソーラン祭りの会場運営や、音楽祭の企画など面白い活動がたくさんあるんです」と話すのはYOSAKOIソーラン祭り新琴似会場実行委員会の事務局長であり、新琴似音楽祭実行委員会の副実行委員長の斉藤純さんです。新琴似で育ち、今も暮らす斉藤さんにとって、このまちは特別な存在。仕事の都合で東京勤務になった期間も、頭の中は故郷のことばかり。「地元で生かせるものはないか」と、様々なお祭りやイベント会場に足を運び、情報収集をしていたといいます。

コロナ禍でイベント開催ができなかったこの2年間。新琴似音楽祭の配信をきっかけに新たに立ち上げたのが、「しんことにテレビ」です。「メンバー全員素人ですが、試行錯誤をしながら番組の構成から撮影、編集まで自ら行っています」と、2021年3月の初回配信以降、地域の魅力に迫る動画を配信中。「ファミリー層や若者の転入により、まちの顔ぶれも変化してきました。若い世代の方が新琴似の面白さや地域活動に興味を持つきっかけになれば」。斉藤さんたちの挑戦は続きます。

新琴似音楽祭
開催／毎年9月
会場／新琴似中央公園
問い合わせ／
新琴似音楽祭事務局
TEL.090-2874-5368

しんことにテレビの配信は月に2回。グルメやイベントから町内散歩や除雪の様子を紹介するマニアックなものまでバラエティー豊か

CASE.01
Town planning in North

コミュニティカフェ 麻生キッチンりあん

地域の人に守られる安心感を
子どもたちに感じてほしい。
困ったらいつでも駆け込める場所に。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

あさぶ商店街には、地域を挙げて子どもたちを守る温かさと懐の深さがあります。商店街以外にお薦めの場所は「安春川」の散策路。春と秋の風景がとりわけ好きで、よく散歩コースにしています。人工的に造られた川ですが、鯉も泳いでいますし、春先にはカモの親子の姿も見られるんですよ。

NPO法人 麻生キッチンりあん
理事長　西本（にしもと） 香奈江（かなえ） さん

北区麻生で生まれ育つ。2016年、麻生商店街振興組合に入組。以来、麻生キッチンりあんの中心メンバーとして活躍中。

ハロウィーンイベントは子どもたちの希望で2021年から開催。2022年は小学1年から中学2年まで13人が参加しました

「トリックオアトリート、お菓子をくれなきゃいたずらするぞ」。あさぶ商店街を子どもたちが巡るハロウィーンイベントを前に、合言葉を練習する元気な声が「麻生キッチンりあん」に響きます。思い思いに仮装した子どもたちの輪の中に、理事長の西本香奈江さんの優しい笑顔がありました。

りあんは麻生商店街振興組合がベースとなり、多彩な活動をするコミュニティカフェ。当初、事業の2本柱は、ひとり親家庭の子どもの「学習支援」と、学生や地域の人が手作り料理を出す「日替わりシェフ」でした。商店街入組をきっかけにりあんの活動に加わった西本さんは、非行防止と治安維持のため、ひとり親家庭に限らず子どもを地域全体で見守り、食事を提供する「こども食堂」を提案。スーパーの駐車場にたむろしてタバコを吸う中学生を目撃して危機感を抱いたからです。「私は生まれも育ちも麻生で、子どもの頃は地域の人がすごく声を掛けてくれて、守られている感覚がありました。養育の社会化を商店街で担えればと考えたんです」。最初は「子どもは家庭で育てるものだ」と反対する組合員もいましたが、「活動を続けるうちに理解してくれて、寄付までいただきました。感動しましたね」。

りあんが主催する「駄菓子屋さん&こども・若者の居場所」や「介護者のつどい」をはじめ、スペースを提供している不登校の親の会など、今起きている状況に対処するうち、関わる事業は増えていきました。事業がない日は閉店しますが、「さまざまな事情を抱えた人がいます。できれば毎日開けて、子どもや困っている人がいつでも駆け込める場所にしたい」。今後は子どもシェルターや若年女性支援の取り組みも検討しているそうです。

NPO法人 麻生キッチンりあん
北区北39条西5丁目2-12
TEL. 011-707-9923
（麻生商店街振興組合 西本さん）
https://asabu-rian.com

ノースウイング バックナンバーより ①

過去のノースウイングの記事を基に、活動内容を振り返ります。
詳しくは、北区ホームページや札幌市の図書館の電子書籍からバックナンバーを読んでみてください。

※団体名や肩書は掲載当時のものです

北区HP　札幌市の図書館

2019年 発行 P73-74　23号

篠路まちづくりテラス 和氣藍々（わきあいあい）　石本（いしもと） 依子（よりこ）さん

地域の人びとの居場所になりたいとコミュニティカフェとしてオープン。思いに賛同した地域の人たちの支援によって支えられています。
「あいあいサロン」「おうち食堂」「語り合いふわふわカフェ」。みんなのやりたいことがかなう場所としてなくてはならない場所を目指して活動していきます。

さまざまな人が集まる場

北区の地域

北区は札幌市の10区のうち、最も人口が多く、11の地区から成り立っています。
面積も10区中3番目に広く、南は札幌駅北口や北海道大学などをはじめ、にぎわいを見せる一方、北は屯田防風林や百合が原公園などの自然を多く見ることができます。また、開拓の歴史も古く、その足跡をあちこちで見ることができるのも、北区の特徴の一つと言えます。

地域の憩いの場「安春川」

夕日に染まる茨戸川

新川夜ざくら 2022

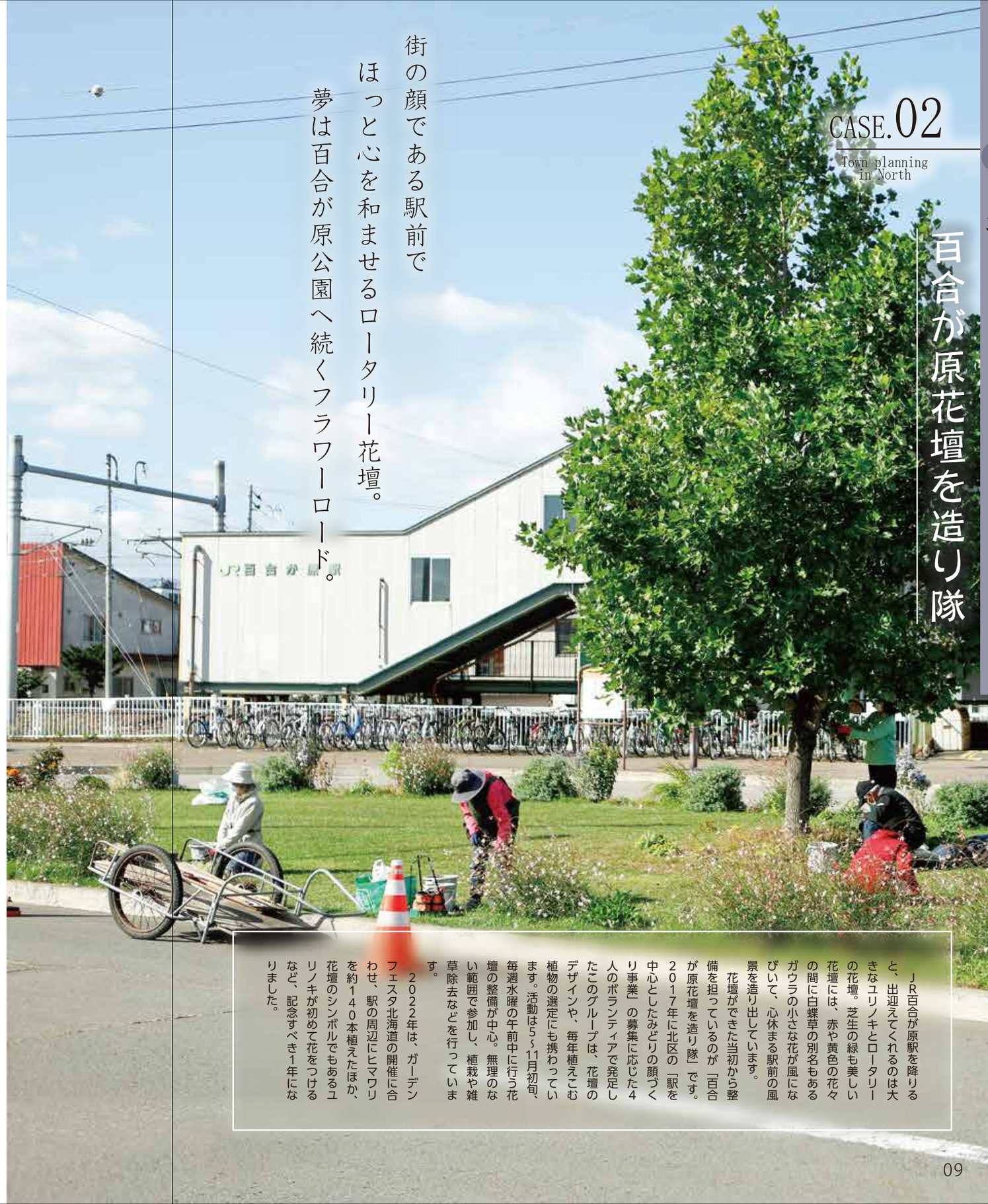
JRタワーから北区を望む

百合が原公園の「菜の花」

CASE.02
Town planning in North

百合が原花壇を造り隊

街の顔である駅前でほっと心を和ませるロータリー花壇。夢は百合が原公園へ続くフラワーロード。



JR百合が原駅を降りると、出迎えてくれるのは大きなユリノキとロータリーの花壇。芝生の緑も美しい花壇には、赤や黄色の花々の間に白蝶草の別名もあるガウラの小さな花が風になびいて、心休まる駅前の風景を造り出しています。

花壇ができた当初から整備を担っているのが「百合が原花壇を造り隊」です。2017年に北区の「駅を中心としたみどりの顔づくり事業」の募集に応じた4人のボランティアで発足したこのグループは、花壇のデザインや、毎年植えこむ植物の選定にも携わっています。活動は5~11月初旬、毎週水曜の午前中に行う花壇の整備が中心。無理のない範囲で参加し、植栽や雑草除去などを行っています。

2022年は、ガーデンフェスタ北海道の開催に合わせ、駅の周辺にヒマワリを約140本植えたほか、花壇のシンボルでもあるユリノキが初めて花をつけるなど、記念すべき1年になりました。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

四季を通して花や緑が楽しめる「百合が原公園」は、北区の魅力であるだけでなく、札幌市にとっても大切なフラワーパークだと思っています。広がりが感じられる「創成川」沿いの景色や、「五戸の森」の自然な雰囲気も好きです。一番の魅力は JR や地下鉄、空港もあって交通の便が良いところかもしれません。

百合が原花壇を造り隊
代表　熊谷（くまがい） ゆき さん

団体の立ち上げメンバーの一人。介護のために美唄市の実家と北区の自宅を行き来しながらも積極的に活動に参加中。

心を和ませるような花壇で、駅を訪れる人たちを迎えたい、そんな思いを持って活動し続ける「百合が原花壇を造り隊」。代表の熊谷ゆきさんはじめ、立ち上げメンバー4人はもともと百合が原でボランティア活動をしてきた花好きばかり。造成初年度は、4人の知識や経験を生かして選んだ花苗400株を植え込みました。赤・黄・白・青の4色に分けて植物を配置、花が映えるように芝生も植え込み、爽やかで見る人の心を癒やしてくれるデザインが特長です。

当初は苗の盗難に遭い、悲しい思いをしたことも。盗難対策の看板を立て、雑草とも闘いながら花壇を整えていきました。「整備の道具や備品管理、花の選定など、北区や北土木さんの協力を得て恵まれた中で活動できています」。

近年は花壇だけでなく駅前全体が気になるように。「駅前の公園や線路脇まで整備の範囲が広がっています」。懸命に活動をする熊谷さんたちを見て、駐輪場整理の方もゴミ拾いをしてくれるなど、協力者も増えました。

現在メンバーは8人。夢は、駅前から百合が原公園までをつなぐフラワーロードを完成させることです。そのためにもボランティアの輪を広げたいと考えています。

百合が原花壇を造り隊
TEL.090-6876-2855（熊谷）
メンバー募集中！
興味のある方は上記まで連絡を。

立ち上げメンバーの一人今村さん（中央左男性）は活動日以外もつい花壇の様子を確認しに来てしまうほど熱心

CASE.02
Town planning in North

札幌市立屯田北中学校 科学部

在来種が生息できる環境を守るために
川にゴミを捨てるのではなく、
川をきれいにする意識を持ってほしい。

2007年開校の札幌市立屯田北中学校。周辺には創成川、茨戸耕北川、東屯田川の3つの川と屯田地区開拓時から残る防風林があり、自然を身近に感じられる場所にあります。科学部は、その恵まれたロケーションを生かし、河川の水質調査や採取した生物の保護など、自然との触れ合いを重視した活動を行っています。

同部顧問の中野智文教諭は「屯田の自然に触れながら、〝今〟〝ここ〟でどのような環境の変化が起きているのかを、自分たちの目で確認させたい」と話します。

2019年には、防風林の池で見つけた絶滅危惧種のエゾホトケドジョウの保護や、河川の水質・生物調査などの取り組みが評価され、「第26回コカ・コーラ環境教育賞」の活動表彰部門で、最優秀賞と環境大臣賞を受賞しました。近年、市内の中学校の科学部は、減少傾向にある中、同校の部員約50人は、地域の中にいる生物の存在に目を凝らし、生き生きと活動を続けています。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

学校周辺の川の中でも、「東屯田川」はエビやライギョなど、多様な生物が生息しているので面白いです。ただ 2021 年の記録的な暑さで、川の水が干上がり、植物が大繁殖しました。川の生態系にも影響が出ているので、自分たちの手で元の姿に戻したいのですが、気軽に川の中に立ち入りができず、今後が気掛かりです。

札幌市立屯田北中学校 科学部
前部長　川井（かわい） 陽人（はると） さん
新部長　倉田（くらた） はな さん

「3年前まで、この辺りの川ではモクズガニがいっぱい捕獲できたんですが、2年前から突然取れなくなったんです」と、残念そうに話すのは川井陽人さん。

「生き物は、水温の影響をすごく受けやすいです。去年の猛暑での生態系の変化は、想像以上でした」と、倉田はなさんは説明します。

中野教諭によると、河川のどう網による生態調査には北海道の許可が必要で、一年に一度、調査を記録した報告書を提出しているそうです。「変化した原因についてみんなで推理したり、データを分析するのも面白いです」と川井さん。

「入部するまでは生物にあまり興味がなかったのですが、自分が住んでいる地域に、さまざまな生き物がいることが分かると、毎日が楽しくなりました」と倉田さんはほほ笑みます。

コロナ禍では、河川敷でバーベキューをする人が増え、ゴミの量も増えたと言います。科学部では、周辺の清掃活動も行い、環境の保全にも関心を寄せています。

「温暖化で生態系が劇的に変化している中、川にゴミを捨てるのではなく、川をきれいにする意識を持ってほしいです」と川井さん。

「在来種が生息できる環境を守り続けてほしいです」と倉田さんは語りました。

札幌市立屯田北中学校 科学部
北区屯田9条4丁目2-1
TEL.011-775-5111
https://www.tondenkita-j.sapporo-c.ed.jp

「ただじっと、魚たちを眺める時間も好きです。生き物から元気をもらっています」と倉田さん

ノースウイング バックナンバーより ②

過去のノースウイングの記事を基に、活動内容を振り返ります。
詳しくは、北区ホームページや札幌市の図書館の電子書籍からバックナンバーを読んでみてください。

※団体名や肩書は掲載当時のものです

北区HP　札幌市の図書館

19号
2012年 発行 P53-54

篠路チョボラ会

会長　川崎 義雄さん

篠路チョボラ会は2010年に創立されました。掲載時の活動内容には、旧琴似川の河川敷を公園化する取組（川の掃除や植樹）、レクリエーションや健康づくりを通した会員同士のコミュニケーション活動、地域の絆を大切にしたネットワークづくりなどがあげられていました。

旧琴似川の植樹の手入れ

23号
2019年 発行 P33-35

拓北・あいの里連合町内会 まちづくり委員会

事務局長　若山 洋司さん

2018年度の取り組みは、4月、JR沿線の樹木の見回り。7月、あいの里北公園の下枝払いとベンチ塗装。9月、町内会の樹木の観察会。改めて、見通しが悪い箇所が多いことを認識。10月、樹木の密生が顕著な5カ所で試験的に間伐を実施。樹木の管理がしっかり行われました。

1台ずつベンチを塗装し直します

23号
2019年 発行 P31-32

ポプラ通りを守る会

会長　木村 美太郎さん

特定外来生物の「オオハンゴンソウ」を、2018年から3年計画で駆除する大作戦が行われました。毎年30～40人で行っていたものを広く参加者を募ったところ、集まったのは140人。遊歩道内と道路側に分かれ、繁殖している「オオハンゴンソウ」を根から抜く作業を実施しました。

駆除作戦の作業風景

15号
2008年 発行 P57-62

NPO法人カラカネイトトンボを守る会

理事　佐藤 美佐子さん

地元の自然に着目して研究活動を続けてきた札幌拓北高校理科研究部の活動に感銘を受け、1997年に設立。篠路福移湿原の保全を目指して、この湿原に生息するカラカネイトトンボにちなんで命名。その取組が認められ2007年第10回「川の日ワークショップin東京大会」でグランプリを受賞。

「カラカネイトトンボを守る会」の管理地第1号

CASE.02
Town planning in North

新川地区緑化推進協議会

地域のシンボル「新川さくら並木」。
755本の桜が元気に咲くように
年に数回調査をして見守ります。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

趣味で札幌市内の巨樹の調査をしています。北海道大学構内には巨樹が 105 本もあり、心が安らぎますね。私のお薦めは幹の周囲が 8m の、日本で一番大きいと思われるハルニレです。秋はイチョウ並木の黄葉が美しく、散策すると無我の境地になれます。また、「新川緑地」も好きです。若い頃はランニングで、今はウオーキングで利用しています。

新川地区緑化推進協議会
幹事　布施 鎬次 さん

1939年、清里町生まれ。新川町内会コミュニティガードとして交差点に立ち、子どもたちの交通指導にも当たっている。

桜並木は紅葉も見応えがあると評判。「来年もきれいに咲いてほしい」と、エゾヤマザクラに触れる布施さん。後継者も募集しています

新川の堤防沿いに全長7.5キロ（※）にわたって続いている「新川さくら並木」。毎年春には、エゾヤマザクラやソメイヨシノ、八重咲きの桜が次から次へと満開の花のリレーを繰り広げて、訪れる人々を楽しませてくれます。

この755本の桜を保護するために地道な活動を続けているのが、新川地区緑化推進協議会の幹事である布施鎬次さんです。2006年から桜の被害調査をほぼ一人で担う桜の〝守り人〟は、「桜の木は繊細で病気などの被害に弱いんですよ」と語ります。

「新川さくら並木」は、地域住民の「新川にシンボルを作ろう」という思いが結実したものです。地域の全町内会が参加して緑化推進協議会を立ち上げ、自分たちの手で植樹して2000年に完成しました。北海道庁林務部の職員として長年森を育てる仕事に従事してきた布施さんは、退職後に転居した新川でこの並木と出合います。「桜並木を見て歩いていたら、いろいろな病気を見つけてしまって」。協議会に連絡したのが縁で付き合いが生まれ、被害調査を依頼されるようになったそう。

調査は年に数回、春から秋にかけて行います。コブ病や胴枯病、エゾヤチネズミや虫による食害。どの木がどんな被害を受けているか1本1本チェックしてデータを作成し、並木の維持管理を担う北区土木センターに報告。連携しながら保護活動に当たります。病気の枝を取り除いたり、害虫や害獣を駆除することも。「弱々しかった木が元気を取り戻してくれた時や、桜が満開になった瞬間は、もう、なんとも言えないですね」と、うれしそうにほほ笑みます。布施さんが見守る桜は来年もまた、かれんな花で人々を幸せにしてくれるに違いありません。

（※）手稲区側も合わせると10.5キロ。

新川地区緑化推進協議会
北区新川1条4丁目4-26
TEL.011-762-2604
（新川まちづくりセンター内）

CASE.03
Town planning in North

新琴似新聞

新琴似に密着して、半世紀。
地域を支える人たちの活動と
郷土史に、光を当てたい。

新琴似連合町内会と新琴似西連合町内会が合同で発行する、月刊機関紙『新琴似』。約2万世帯に配布され、住民から〝新琴似新聞〟の愛称で親しまれています。

創刊は、北区が誕生するよりも前の、1966年。当時は、町内会の役員などが持ち回りで記事を書き、発行頻度は年3回ほどだったそうです。1968年に、専属記者による取材を軸にした月刊紙にリニューアルし、大型スーパーの出店や地下鉄南北線麻生駅の開業など、時には町内会活動の枠を超え、地域のニュースを精力的に報じてきました。

同紙は、2018年度「町内会・自治会広報コンクール」（一般社団法人北海道町内会連合会主催）で最優秀賞を受賞。連合町内会部門10作品、単位町内会部門63作品、インターネット部門9作品、合計82作品の中から選出されました。

農業地帯から、ベッドタウンへ―。大きく変貌を遂げた新琴似地域の歩みを、現在も記し続けています。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

新琴似の東西を走る四番通りや六番通り、南北の第2横線などの区画割りは、屯田兵が入植した開拓当時のグランドデザインのままなんです。札幌市内でも、開拓当時の区画がここまで残っている地域は、それほど多くないのではと思います。住宅街の中に自然が残る「屯田防風林」も、開拓時代からの遺産です。

機関紙『新琴似』
編集長　大平（おおだいら）勲（いさお）さん

1941年生まれ。北海道新聞の記者職を経て、2013年9月から機関紙『新琴似』に、6代目記者として参加。石狩市在住。

「月刊で、ここまで本格的な機関紙を発行している町内会は、全国的にも珍しいと思います。屯田兵が入植した明治期以来、自治活動が盛んな地域であることも関係しているのかもしれません」。

そう語るのは、機関紙『新琴似』の編集長、大平勲さん。大平さんは、元北海道新聞の記者。定年退職後、2013年に知人の紹介で『新琴似』編集室に参加しました。

「地域の皆さんを取材しながら、新琴似にゆかりの深い屯田兵や、かつて名産だった新琴似大根など郷土史の勉強にも励みました」。

現在は、記事の取材執筆から撮影、紙面レイアウトまで、大平さんが一人で手掛けています。原稿の締め切り前には、執筆作業が夜中まで及ぶこともあるそうですが「新聞作りが好きだから辞められません」と笑います。

「新琴似まちづくりセンター」とも情報を共有し、高齢化した地域の結束力を強めるため、近年は、住民同士の交流イベントや高齢者福祉、防災訓練に関連した記事を増やしているそうです。最近注目のニュースは、「地域住民が立ち上げたYouTubeチャンネル『しんことにテレビ』です」と大平さん。「デジタル版の新琴似新聞だと思っています。皆さんの活動に、大いに期待しています」。

機関紙『新琴似』
毎月1日発行
新琴似地区（町内会加入世帯）へ戸別配布。発行部数約2万部
情報の提供・問い合わせ先
TEL.090-4876-6400（大平）

毎月8～12ページもの情報量。見出しや題字など新聞と同じ体裁で広告も多数掲載

CASE.03
Town planning in North

拓北・あいの里地区 民生委員・児童委員

札幌中の子どもたちに知ってほしい
開拓の歴史が、北区にはある。
いつか、地域に資料館ができたら。

拓北で生まれ育ち、民生委員や消防団などで地域のために長年活躍してきた加藤隆治さん。曽祖父の代に秋田県から現在の石狩市生振（おやふる）に入植し、その後、祖父が篠路興産社（※）に職を得て、一家は現在の場所に落ち着きました。「父は農業を営みながら、札幌市議会議員となり5期を務めました」。40代前半でリンパがんを患い、医者もお手上げ状態だったと言いますが、「手術をしてくれる病院が見つかり、もう一度健康な体を取り戻した父は、その時から『生かしてもらった命を、人のために役立てたい、まちづくりに尽力しよう』と、市議に立候補したんです」と加藤さんは話します。

自身も父親と一緒に農業に従事した後、おもちゃの問屋に就職。その後、独立して拓北にプラモデル店をオープン。約30年、地域の子どもたちはもちろん、大人たちにも愛されてきました。

そんな加藤さんは北区の歴史に明るく、周囲から〝生き字引〟と呼ばれています。

（※）明治15（1882）年、徳島県出身の滝本五郎が創設した農産組織で藍の栽培が明治末まで行なわれた。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

札幌の中でも特に歴史がある篠路には、それを今に伝える場所が残っています。「龍雲寺」の境内には荒井金助、早山清太郎ゆかりの地の碑があったり、「北区歴史と文化の八十八選」に選ばれているイチョウの木があったり。ほかにも歴史を伝える場所がたくさんあることが魅力です。

拓北・あいの里地区 民生委員・児童委員
加藤（かとう） 隆治（りゅうじ） さん

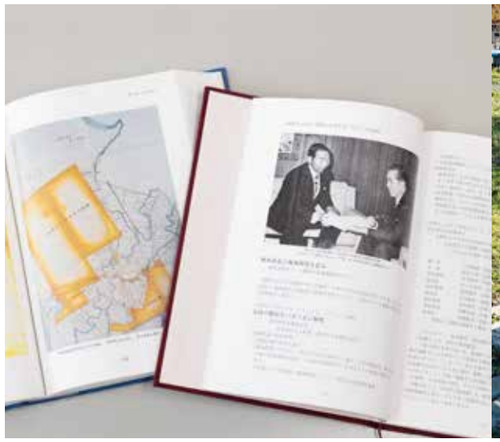
民生委員を15年、消防団は36年、安全協会の活動にも貢献。「篠路地区の資料館を札幌の子どもたちに残したいですね」。

「本当のことが知りたい性分なんですよ」。と、加藤さんは照れ笑いを浮かべます。小学生時代の授業がきっかけで、地域の歴史を探究するように。書物を読んだり、詳しい人に話を聞いたり、独自に情報を収集しました。

特に興味を持ったのが、幕末から明治にかけて北海道開拓に大きく貢献した、荒井金助と早山清太郎のこと。幕府の役人だった荒井金助は、武士を率いて篠路に入植した人物です。農民として汗を流した早山清太郎は、石狩で初めて米作りを行い、私財を投じて道路を造りました。「この2人がいなければ、今の北海道はありません」と加藤さん。しかし、この2人が札幌を切り開いたことは、あまり知られていません。加藤さんには、「札幌の父」とも呼べる荒井金助と早山清太郎について、もっと多くの人たちに知ってもらいたいという思いがあります。

「札幌中の子どもたちに、伝えたい。そのために、篠路の資料館を造ることができたら」と大きな夢を語ります。

JRあいの里教育大駅の前を歩きながら、「子どもの頃、ここには線路しかなくて、畑の中をSLが走っていた光景が今も目に焼き付いています。冬は、よく父親と一緒に農機具を買うため札幌駅まで馬そりで出掛けたものです」と、懐かしそうに話します。「今は、何でもここでそろうし、随分、暮らしやすくなりましたね」と目を細める加藤さん。その言葉には、この地の開拓や発展に尽力した先人たちへの感謝が込められています。



札幌市議会議員として北区の発展にも貢献した父、加藤隆司さんの記念誌と篠路発祥の地の碑

ノースウイング バックナンバーより ③

過去のノースウイングの記事を基に、活動内容を振り返ります。
詳しくは、北区ホームページや札幌市の図書館の電子書籍からバックナンバーを読んでみてください。

※団体名や肩書は掲載当時のものです

北区HP　札幌市の図書館

篠路歌舞伎保存会　22号

2017年 発行 P15-16

会長　大髙 英男（おおたか ひでお）さん

「篠路歌舞伎保存会」創立30周年を迎えた2016年、記念祝賀会が盛大に行われました。保存会設立のきっかけは、1985年の「篠路コミュニティセンター」開館記念祝賀会に余興として、「ほてから座」が歌舞伎を公演したこと。これが歌舞伎復活を求める大きな声となりました。

ほてから座による演目「白浪五人男」

屯田郷土資料館運営委員会　22号

2017年 発行 P31-32

会長　坂田（さかた） 文正（ふみまさ）さん

屯田兵入植100年を機に建設された屯田郷土資料館。開設から2016年10月末まで、入館者は累計63612人（掲載時）。多くは北区在住の人ですが、他の区や道内、さらには道外の方も見学に訪れています。説明員が常駐していますので、解説を聞きながら見学できます。

見学に来た小学生に解説をする説明員

新琴似歌舞伎伝承会　4号

1997年 発行 P34-37

（前）事務局長　小野寺（おのでら） 孝（たかし）さん

1996年3月、約80年ぶりに復活のノロシを上げた新琴似歌舞伎。同年8月には、篠路子ども歌舞伎との合同公演に出演し、「北区に歌舞伎あり」という気概を見せてくれました。けいこ指導にはプロの歌舞伎俳優・中村歌女之丞（かめのじょう）さんも応援にかけつけました。

中村歌女之丞さんによる稽古風景

あさぶ亜麻保存会　19号

2012年 発行 P57-58

会長　宮崎（みやざき） 正晴（まさはる）さん

2011年2月、亜麻に関する活動をしていた「ふらっくす倶楽部」の永倉吉裕さんと麻生まちづくり協議会のメンバーが集まり、麻生の町名の由来になった亜麻を後世に残したいと亜麻保存会の設立準備会を設置。同年6月、名称を「あさぶ亜麻保存会」として、発足しました。

亜麻の歴史や育成方法を紹介した冊子「あまのわ」

篠路獅子舞保存会　5号

1998年 発行 P76-80

副会長　中西（なかにし） 俊一（しゅんいち）さん

1997年、春から神社氏子に声をかけ保存会の輪を広げていくことになりました。烈々布の43人と新たに加入した40人で、烈々布獅子舞から篠路獅子舞と呼び名を変え、今後の芸能伝承へ向かうことに。同年7月、継承設立を行い、新たな役員を選出、再出発しました。

1996年に行われた140年祭

北区歴史と文化の八十八選
「50／屯田郷土資料館」

北区歴史と文化の八十八選「72／篠路獅子舞」

北区歴史と文化の八十八選
「44／帝国製麻琴似亜麻工場跡」

CASE.03
Town planning in North

新琴似屯田兵中隊本部保存会

自分たちのまちは自分たちで守る。
先人への感謝とともに
受け継いだ遺産を後世に残したい。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

新琴似で好きな場所は、「安春川」です。その歴史は、屯田兵の入植時代にまでさかのぼります。農村地帯の頃は排水溝でしたが、時代の流れとともにその役目も変わりました。今では遊歩道が整備された公園として生まれ変わり、マガモたちも飛来する憩いの場になりました。

新琴似屯田兵中隊本部保存会 副会長
新琴似神社 責任役員 敬神講講長など　平井（ひらい） 勇光（ゆうこう）さん

1945年、北区新琴似生まれ。66年に札幌市琴似町消防団に入団し、これまでに北海道消防協会会長、札幌市北消防団団長などを歴任。

新琴似神社の境内にある新琴似屯田兵中隊本部。文化財の保存や活用を保存会が担っています

新琴似の歴史を語る上で、欠かせないスポットといえるのが「新琴似屯田兵中隊本部」と「新琴似神社」です。新琴似屯田兵中隊本部は、1886（明治19）年に、新琴似開拓の拠点として建てられました。その翌年に、天照皇大御神（あまてらすすめおおかみ）、豊受大神（とようけのおおかみ）、神武天皇の三柱の神を奉斎（ほうさい）する神祠（しんし）を建て、入植者の心のよりどころとしたのが新琴似神社です。

「新琴似屯田兵中隊本部と新琴似神社は、切っても切れない関係です」。このように話すのが、平井勇光さん。新琴似に入植した屯田兵の四代目として、同地区で生まれ育ちました。

戦後、中隊本部は新琴似地区の町内会や札幌市の新琴似出張所などに活用された後、1974年に、札幌市の有形文化財に指定されました。現在は、開拓の歴史を展示する資料館として一般公開し、新琴似屯田兵中隊本部保存会が、施設の運営や屯田兵にまつわる資料の管理を行っています。

「保存会の発足当初は、屯田兵の資料の収集に取り組みました。当時の写真や生活道具などをご家庭から集めることは、想像以上に骨が折れました」。

一方で、平井さんは21歳から33年間にわたり、新琴似神社の「伶人（れいじん）」と呼ばれる雅楽隊の一員も務めてきました。同じ頃に、地域の消防団にも入団し、2019年に退任するまで52年間勤続しました。

「災害時に行政頼みでは、生活の復旧に時間がかかります。自分たちのまちは自分たちで守るという意識が大切で、消防団で培った知識を、現在は町内会の防災活動に還元しています」。

これまで多くの地域活動に携わっているのは、「屯田兵のゆかりの者として、地域に恩返しをしたいという思いからです」と平井さん。「先人が残したものを、次世代に引き継ぐのが私たちの役目です」。

新琴似屯田兵中隊本部保存会
北区新琴似8条3丁目1-8
TEL.011-761-4205
（新琴似まちづくりセンター）

CASE.04
Town planning in North

幌北健康リズム会

音楽に合わせ、ダンスで健康に。高齢者がみんなで集える楽しい場所を提供したい。

毎週火曜日の午前中、幌北会館1階にある集会室から、多彩なジャンルの音楽が流れてきます。「365歩のマーチ」、「ドレミの歌」、「マイ・ウェイ」、「メモリー」、「きよしのズンドコ節」、「北区音頭」…。音楽に合わせてカスタネットを鳴らしたり、手作りグッズで体をほぐしたり。ステップを踏みながら、体を大きく動かし、生き生きとダンスをしているのは、「幌北健康リズム会」の皆さんです。

幌北健康リズム会は、幌北地区に居住する65歳以上の人を対象とした集まり。週に一度、ダンスで無理なく体を動かし、楽しく健康づくりの活動を行っています。2022年現在、70～80代の女性を中心に18人の会員が活動中。92歳を迎えた代表の新枝百合子さんが、ダンスの指導に当たっています。

会が設立されたのは1983年。小学校の体育館、児童会館、幌北会館と場所を移しながら、約40年間、活動を続けています。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

50 年前に東京から越してきた時は、道路の広さに驚いたものです。今ではもう、自分はすっかり道産子だと思っています（笑）。こぢんまりとした幌北地区は、治安もよく便利で住みやすいエリア。北部の篠路や太平、屯田は広々として緑が豊かです。いろいろな表情を持っているのが北区の魅力だと思います。

幌北健康リズム会
代表　新枝（あたらし） 百合子（ゆりこ） さん

1930年生まれ。約40年間、地域のさまざまな福祉活動に従事。リズム会は2022年度の札幌市市民憲章の実践団体として表彰された。

取材当日はあいにくの土砂降り。参加者が少ないのではという予想を覆し、13人の会員が集まって、心地よい汗を流していました。

代表の新枝百合子さんは、「コロナ禍で約1年間、活動できない時期があったんです。そうすると皆さん、目に見えて足腰が弱ってしまったそうなの。体を動かす大切さが身に染みて分かったと、再開後は以前より熱心に通う人が多くなったんですよ」と笑います。

すっと背筋を伸ばして座る新枝さんの姿は、92歳とは思えない若々しさ。ダンスの際の美しくしなやかな動きにも見とれてしまいます。「戦後間もない頃から、ずっと社交ダンスをやっていたんです。フォークダンスやレクリエーションダンスも好きで、それを地域の人の健康づくりに生かせないかなと思ったのがそもそもの始まりです」。

現在は会員の年齢に合わせて、疲れ過ぎないようにプログラムを組んでいるそう。「高齢の方は家の中にいるより、ここへ来てちょっと体を動かしたり、おしゃべりをしたりするだけでも楽しいはず。そういう場所を提供したいんです。皆さんが元気でいてくださることが大事。そこから私も元気をもらっています。自分が動けるうちは続けたいですね」。

幌北健康リズム会
開催／毎週火曜10:30～12:00
会場／幌北会館
（北区北17条西5丁目）
参加費／月1000円
問い合わせ／幌北まちづくりセンター
TEL.011-726-6345

時には壁の大きな鏡に向かって、時には輪になって、ダンスを楽しみます。休憩は自由。無理をしないのがモットーです

屯田社会福祉協議会

屯田兵から名付けられた屯田エリア。
素晴らしい仲間たちと一緒に
先人が開いた地域に貢献したい。

北区社会福祉協議会・屯田社会福祉協議会・
屯田地区民生委員児童委員協議会
会長　田尻（たじり） 芳博（よしひろ） さん

1946年、屯田生まれ。2006年から長年にわたり地域活動に貢献。地域の歴史にも現況にも精通する屯田の"生き字引"のような存在。

私 が思う、
北区 の魅力・好きな場所

複数の大学がある学園都市であり、ほとんどの地形が碁盤の目のように整地されていて分かりやすい。便利な商業施設もありながら、豊かな自然も残っている。何よりも安心して生活できるというのが一番ですね。恵まれた環境だと思います。

屯田郷土資料館にて。「札幌で4番目の入植地ですが、屯田という地名が今に残るのはここだけです」

「私が幼い頃、屯田は一面水田地帯でした。当時の世帯数は約200。どこに誰の家があるかほぼ頭に入っていて、みんなで遊び回っていましたね。今は宅地造成が進み、世帯数は1万5000以上、空き地もほとんどありません。一代でそんな移り変わりを目にできたのは良かったと思いますね」。そう語るのは、地域活動に長年取り組んでいる田尻芳博さんです。

屯田はその名が示すように、明治22（1889）年に屯田兵が入植して開拓した工リア。屯田兵3世にあたる田尻さんは、「それほど詳しくないですよ」と言いつつ、先人の開拓の歴史から屯田の現状まで、分かりやすく教えてくれました。

北区社会福祉協議会の会長などいくつもの役職をこなし、地域のリーダーとして活躍している田尻さん。活動を始めたのは、子どもの頃、共に遊んだ先輩たちから誘われたのがきっかけでした。町内会の役員を長く務めるうちに知り合いが増え、地域社会に貢献する人の輪がどんどん広がっていったそう。今の活動はその延長線上にあると話します。モチベーションについて尋ねると、「平凡ですが、ありがとうと感謝されるのはうれしいですね。でも一番は、理解して協力してくれる素晴らしい人たちに恵まれたこと。そういう仲間と一緒に活動できることです」と、力強く言い切りました。

屯田社会福祉協議会では、2022年10月、コロナ禍で孤立しがちな一人暮らしの高齢者を招いて、数年ぶりに「お楽しみ会」を開催。とても喜んでもらえたそうです。生まれ育った屯田を、北区を、誰もが安心して暮らせるまちにするために、田尻さんと仲間たちの活動はこれからも続きます。

屯田社会福祉協議会
北区屯田5条6丁目3-21
TEL.011-772-1260（屯田まちづくりセンター内）

北区社会福祉協議会
北区北24条西6丁目 北区役所1階
TEL.011-757-2482

日赤奉仕団幌北分団

地域が好き、人が好き。
出会う人から活力をもらえる
ボランティア活動は、私の元気の源です。

長年続けてきた雑巾の寄贈。計400枚を地域の学校、児童会館などに配布しています。写真は「幌北まちづくりセンター」への寄贈の様子

日赤奉仕団幌北分団
分団長　五十嵐（いがらし） 秀子（ひでこ） さん

1991年に入団。２年前から分団長に就任。ほかにも連町の役員や民生委員などさまざまな地域活動に積極的に携わっている。

私 が思う、
北区 の魅力・好きな場所

「北13条いこい公園」がお気に入りです。この公園は、隣接する学童保育（放課後児童クラブ）の子どもたちが伸び伸び遊べる空間を作りたいという、地域住民の声を反映して作られました。公園に植える樹木も意見を取り入れてもらったこともあって、特に思い入れがある場所です。市内で一番、きれいな公園だと思っています。

日赤奉仕団は、赤十字思想である人道と博愛の精神で地域活動を行うボランティア団体で、全国各地に分団が組織されています。北区の幌北分団は１９５６年４月に発足し、市内でも長く活発に活動を続けている分団の一つです。

赤い羽根共同募金の活動や献血ルームのボランティア、公園清掃、子育て支援などさまざまな形で地域に携わり、住みよいまちづくりに貢献しています。「〝陰の力となり人々に奉仕する〟が私たち分団のモットー。活動を通していろいろな人や知らないことに出会えるので、私にとって元気の源です」と、分団長の五十嵐秀子さんは、うれしそうに話します。

多彩な活動の中でも花壇作りは、当分団の特徴的な取り組みの一つ。１９７９年に地域の美化運動として始まり、１９９１年から幌北小学校の３年生とともに作業を行うようになりました。毎年５月、団員と小学生が一緒になって、通学路の花壇に花苗を植えます。「市内にある分団の中でも小学校と連携しているのは私たちだけ」と五十嵐さんは胸を張ります。この共同作業とともに団員が楽しみにしているのは、作業の後日に児童が企画してくれる交流会「ありがとうの会」やお礼の手紙です。「みんなとっても一生懸命。手紙からもそれが伝わってきて、胸がいっぱいになるんです」。

団員になって最も思い出深いことといえば、皇居で行われる４日間の奉仕活動に何度も参加できたこと。この体験は、今思い返してみても当時の感激がよみがえるほどだそう。「若い団員が少ないのは悩みの種ではありますが、私は地域も人も大好きですから、これからも楽しく活動を続けていきたいです」と、はつらつとした声で答えてくれました。

日赤奉仕団幌北分団
TEL.011-726-6345
（幌北まちづくりセンター内）

篠路茨戸健康づくりの会

会長　三澤（みさわ）禎一（ていいち）さん

「住民同士がつながり、支え合って健康づくりを実践しやすい環境を作りたい」。連合町内会などで要職を務めてきた三澤さんは、地域の高齢化を実感した時にそんな思いを強く持ったと言います。そこで自ら先頭に立ち、2001年、「篠路健康づくりの集い」を発足。地域の人がウオーキングや体操など、運動を習慣にするきっかけづくりや、自分の体に向き合う場を提供し、20年以上も地域の健康づくりの一翼を担っています。現在は、70~90代の会員47人が所属。活動は年に6回行われ、約4キロのウオーキング、食生活や医療についての勉強会、体力測定などを通して、高齢者の快適な生活を支えています。「私自身も年を重ねましたが、まだまだ元気。一緒に活動している仲間と会えば笑顔になれるし、今後も楽しく活動を続けていきたいです」と力強く語ってくれました。

〈写真右〉「令和3年度自治会等地縁による団体功労者総務大臣表彰」伝達式での三澤さん。〈同左〉2022年5月に行われた健康づくり事業「一緒に学ぼう!心と体の健康講話!」。「北区はつらつ簡単体操」でストレッチ。

●篠路茨戸健康づくりの会
TEL.011-771-2231
（篠路茨戸まちづくりセンター）

鉄西地区社会福祉協議会

会長　小森（こもり）雅夫（まさお）さん

鉄西地区社会福祉協議会では、福祉のまち推進センター、鉄西連合町内会女性部などと連携し、さまざまな行事を通した高齢者の見守りを行っています。小森さんは協議会の代表として、また町内会長として、春と秋に実施する「にこにこウオーキング」を運営している他、78歳以上の1人暮らしの方を対象とした配食サービスを行うなど、高齢者の健康づくりと安否確認を兼ねた取り組みに奔走。さらに地域の事業所、警察署との研修交流会や、年2回発行の広報「てっせい」の制作などにも携わり、忙しい日々を過ごしています。「まち歩きも、お弁当も、みんなと一緒だと楽しさもおいしさも倍増します。こうした機会は高齢者にとって、心の栄養になりますから、もっとつながる場を増やしていきたいですね」。アフターコロナを見据えた小森さんの挑戦は続きます。

〈写真右〉「にこにこウオーキング」出発前の集合風景。この後、準備体操をしてから歩き始めます。左から2人目が小森さん。〈同左〉北大構内を歩くのが定番コース。まずは、イチョウ並木が美しい北13条門に向かいます。

●鉄西地区社会福祉協議会
TEL.011-726-5285
（鉄西まちづくりセンター）

福祉団体ひまわりの会

会長　北澤（きたざわ）豊（ゆたか）さん

「おはじきやメンコ、ビー玉などを使って、子どもたちと一緒になって遊ぶんです。やり方を教えてあげると、ものすごく興味を持ってくれて、本当に楽しいですよ」。

そう語るのは、鉄西地区で生まれ育ち、地域の〝生き字引〟的存在として知られている北澤さん。児童館を訪問し、地域の子どもたちに懐かしい遊びを教えたり、学校の周りのごみ拾いをしたり、高齢者と子どもたちとの触れ合いの時間を育んでいます。「マンションが建ち並んだ今では考えられないけれど、昔、この辺りは長屋が多くてね。ご近所付き合いもあって、みんなが顔見知り。そんな時代には戻れないけど、地域にたくさん知り合いがいて、気軽にあいさつし合えるような雰囲気のまちはやっぱりいいよね」。世代を超えてつながる「和（輪）」がまちの活力になる。それが北澤さんの揺るぎない信念です。

〈写真右〉札幌市立北九条小学校のミニ児童会館では、ひまわりの会スタッフが昔の遊びを子どもたちに教えるイベントも開催。左から2人目が北澤さん。〈同左〉北澤さんの周りには、一緒に遊びたい子どもたちがたくさん集まります。

●福祉団体ひまわりの会
TEL.011-726-5285
（鉄西まちづくりセンター）

新川さくら並木連合町内会・地区社会福祉協議会など

会長　佐久間（さくま）五十也（いそや）さん

単位町内会、連合町内会、地区社会福祉協議会、地区緑化推進協議会などの会長職を務め、防災・防犯に関わる活動を中心に、地域の安心・安全な暮らしを守るために尽力している佐久間さん。「年末には火の用心のちょうちんを持って、みんなの先頭を歩いて声を出したり、年金支給日には銀行で防犯パトロールをしたり……。もう長年やってるけど、体力的には大変だよ」と言います。それでもこうした活動を続ける中で「体を大切にね」「いつもありがとう」という、まちの人の声に励まされることも多いのだとか。

今すべきは、次の世代に自身の役割を引き継いでいくこと。「子育て世代が親子で活動に参加してくれたりして、少しずつ広がりを感じています」。よく笑い、とにかく前向きでパワフルな佐久間さん。タスキをつなぐ日まで、まだまだ走り続けます。

〈写真右〉2022年10月、新川まちづくりセンター自主運営の開所式での1枚。中央が佐久間さん。〈同左〉さくら並木沿いを町内会ごとに決められたスタート地点から新川サイロ公園まで歩く新川さくらフェスティバル「ウォーキング大会」。

●新川さくら並木連合町内会
TEL.011-762-2604
（新川まちづくりセンター）

新琴似西地区民生委員・児童委員協議会

会長　石尾（いしお）勝子（かつこ）さん

「地域の人々がお互いに支え合う、優しいまちづくりを実現したい」。そんな志を持って、民生委員・児童委員として20年以上、活動を続けている石尾さん。高齢者の安否確認や子育て支援と、その内容は多岐にわたります。コロナ禍にあって、それまで当たり前にしてきた自宅訪問や、幼稚園、保育園、小中学校での活動は今もかなわない状況。とはいえ、民生委員として活動する上での信条ともいえる言葉「地域の一隅に小さい灯をともしたい」を胸に日々、地域のためにできることを続けています。現在、地区の民生委員は、定員28人のところ25人。あと3人を2023年の春までに補充し、アフターコロナを見据えた体制づくりが急務と言います。「皆さんが、故郷と愛を感じるまちにしたい」。石尾さんは今日も弱い立場にある人の心に寄り添い、役所や関係機関とのパイプ役として奔走しています。

〈写真右〉おそろいのエプロンで活動します。前列左から2人目が石尾さん。〈同左〉子育てサロン「かもかもサロン」は月1回、新琴似三和福祉会館または新琴似双葉福祉会館で開催。

●新琴似西地区民生委員
児童委員協議会
TEL.011-762-8767
（新琴似西まちづくりセンター）

屯田地区自主防災組織　屯友会

風水害時に浸水が想定されている屯田地区では、2016年から合同防災訓練を行うようになりました。現在は特別養護老人ホーム、保育園、有料老人ホーム、認知症グループホーム2件とそれぞれが所属する町内会、隣接する町内会（計3町内会）、同町内会の高校、北消防署、北消防団、防災設備会社の総勢300人ほどが訓練に参加しています。屯友会の連絡窓口を担う白勢圧志さんいわく、「無理な計画や高い理想を持つのではなく、今できることでお互いを助け合って地域との交流を深め、有事の際の自助、共助の礎を築いています」。活動は2021年度「札幌市防災表彰団体」にも選ばれ、モデルケースとして他地域の視察や取材を受けることも増えたといいます。屯友会の取り組みは、地域コミュニティの再生と防災力の向上に大きく貢献しています。

〈写真〉訓練は北消防署、北消防団も全面的に協力。担架を使い、階段での負傷者の搬送方法なども学びます。さらに、避難所の運営側に立ち、受け入れる立場の考え方や手順なども教わります。

●屯友会
TEL.011-775-7600
（株）ケアセンター　担当・白勢

麻生連合町内会・麻生社会福祉協議会

会長　田中（たなか）巌（いわお）さん

コロナ禍で外出の機会が減り、高齢者の運動不足による身体機能の低下や社会的孤立は深刻な社会問題に。「見守り」の自宅訪問が難しい中、「行けないなら、来てもらおう」と、麻生地区福祉のまちセンターと介護予防センターが協力し、2007年から毎月開催しているサロンに体操教室などのプログラムを積極的に提供。人と人とがつながるこの活動をけん引しているのが、田中さんです。「できないと諦めてしまったら、心身の活力が落ちて、介護が必要になる高齢者が増えてしまう。いろいろ制限があって大変なこともあるけれど、やっぱり地域とつながって誰かと話したり、体を動かしたりする時間は、心身を健全に保つ上で大切なこと」。今後さらにサロンを充実させ、地域の健康づくりにますます貢献したいと元気いっぱいに語ってくれました。

〈写真左〉75歳以上の単身者を対象に開催していた「ふれあい昼食会」は、内容を変更し、2022年11月に「ふれあい交流会」として実施。約30名が、ゲームやレクリエーションを楽しみました。
〈同右〉中央が田中さん。

●麻生地区社会福祉協議会
TEL.011-757-5810
（麻生総合センター内）

ひまわり連合自治会防災会

副会長　大坂（おおさか）登（のぼる）さん
防災部長　大野（おおの）毅（たけし）さん

ひまわり連合自治会防災会は、拓北地区の6町内会で構成された組織です。阪神淡路大震災をきっかけに、地域住民の防災意識の向上を目的として、1997年に結成され、以来、毎年の防災訓練のほか、防災マップの制作、拓北小学校での出前講座の実施など、精力的に活動を続けてきました。「東日本大震災以降も、道内では胆振東部地震など各地で大きな災害が発生しています。いざというときに自分と大切な人の命を守るためにも、日頃から防災意識を持つことは必要な備えです」。コロナ禍で、2020年以降、中止となっている防災訓練の再開を見据え、北区役所や北消防署（あいの里出張所）をはじめ、地域の関係機関、さらに近隣町内会との連携を図り、より多くの地域住民が訓練に参加できるよう、現在、準備を進めています。

〈写真〉防災訓練では実際に消火器を使った鎮火体験や負傷者の救助、避難所に配置する段ボール製のベッドの組み立てなど、有事を想定し、さまざまなことを学びます。参加している地域住民の表情も真剣そのもの。

●ひまわり連合自治会防災会
TEL.011-771-8241

15号
2008年 発行 P21-24

新琴似西少年消防クラブ
部長　松本（まつもと） 政昭（まさあき）さん

掲載当時、結成20年目の所属メンバーは新琴似西小学校4年生から6年生の18人。10人のボランティア指導員による活動計画の下、三和地区と双葉地区の防火パトロール、規律訓練・ロープ結索訓練、「119番の日」防火啓発などに、クラブ一丸となって取り組んでいました。

規律訓練の様子

23号
2019年 発行 P57-58

新琴似西地区福祉のまち推進センター
事務局長　貴戸（きど） 和彦（かずひこ）さん

2019年度の福祉研修会は〈基本研修〉〈実践報告〉〈研修講義〉〈寸劇より学ぶ〉とそれぞれの研修会にテーマを持たせ4回開催。特に4回目の北区社協生活支援コーディネーターが脚本を作成した寸劇「支え合いの明日へ向けて」は、センター職員も参加し、好評を博しました。

寸劇を演じる皆さん

20号
2013年 発行 P61-62

屯田防犯パトロール隊（通称：とんぼ隊）
隊長　松井（まつい） 敦利（あつとし）さん

とんぼ隊を立ち上げて9年目の掲載当時、冬期間に除雪作業と防犯パトロールを同時に行う活動について、北警察署より「みなさんの活動を参考に、今年から北海道全域で北海道警察と国道の除雪業者が子どもの見守りに関する安全協定を締結しました」と報告を受けました。

とんぼ隊のマーク

19号
2012年 発行 P21-22

新琴似西連合町内会
防災部長　新井（あらい） 明（あきら）さん

防災に関して尽力した2011年。8月には新琴似西連合町内会と北区役所による合同防災訓練を新琴似西公園で行い、500人が参加しました。11月には、17町内会の会長と防災担当部長、連町の校区にある6つの小中学校から7人が参加し、避難場所運営研修を行いました。

防災訓練の様子

16号
2009年 発行 P68-72

太平百合が原地区青少年育成委員会
会長　熊木（くまき） 基雄（もとお）さん

2009年は、ふれあい収穫祭10周年の年。百合が原ファーム（熊木農園）の協力を得て、約100人の地域の子どもたちや保護者が、収穫体験をするイベントです。ジャガイモととうもろこしの昼食会、カレーセットが当たるビンゴ大会などで、食への関心が高まることを願っています。

ジャガイモ、玉ねぎの収穫の様子

13号
2006年 発行 P24-27

屯田地区健康づくり推進実践会
会長　大泉（おおいずみ） 道雄（みちお）さん

2005年に発足10周年を迎え、翌年2006年には屯田地区センターにて記念式典を開催。当時の平木屯田連合町内会長、渡辺屯田社会福祉協議会長、三觜北区保健担当部長など、来賓を迎えて執り行いました。さらに、10周年記念誌「健翔」も発行しました。

10周年記念誌「健翔」

12号
2005年 発行 P16-18

スローライフ・イン・24実行委員会
実行委員長　小泉（こいずみ） 詔信（あきのぶ）さん

「食と花でまちづくり・スローライフ・イン・24」とテーマが決定。実行委員会開催へ向け準備が始まり、2004年3月に札幌サンプラザで第1回実行委員会が開催されました。同年6月には歩道へのプランター設置、8月には「スローライフ・イン24フェアー」としてお祭が行われました。

自転車撤去とプランター設置

19号
2012年 発行 P47-48

拓北・あいの里ケア施設町内会
事務局長　長谷川（はせがわ） 聡（さとし）さん

拓北・あいの里ケア施設町内会は、同連合町内会地区にある、介護・福祉・医療施設や、居住する専門家・関係者で構成された、ちょっと珍しい町内会。「他の町内会」と日頃から交流し、助け合うことを目的に、2011年に発足しました。

自分の家族の介護体験を語る大学教員

CASE.04
Town planning in North

札幌子ども会育成連合会北区支部など
副支部長　佐藤（さとう） 欣一（きんいち）さん

北24条の夏祭り「ノースロード24フェスタ」で金魚すくいの出店をしたり、北区民センターで「子ども祭り」を開催するなど、佐藤さんは子どもたちの心に温かい記憶を刻む〝仕事人〟。きっかけは「炭鉱のまちで育った私の原風景にお祭り、屋台、縁日があって、それが楽しくて懐かしい思い出として残っています。都会で暮らす子どもたちにも、そんな体験をさせてあげたいと思ったから」。実際に祭りに来る子どもたちの生き生きとした表情や、会場にあふれる親子の笑顔を見ていると幸せな気持ちになると言います。一方で、地域で子育てをしていたひと昔前とは違い、子ども会に携わる保護者もわが子が成長すると、活動を離れてしまうことが多く、事業継続の難しさも実感。「子どもたちに故郷の優しい記憶を残してあげたい」。佐藤さんの思いはきっと未来につながっていくはずです。

〈写真右〉「ノースロード24フェスタ」には、近隣の子どもたちが多く訪れます。学生ボランティアも運営に参加し、幅広い世代の交流が生まれています。〈同左〉「子ども時代の楽しかった思い出を、都会の子どもたちにも体験してほしい」と佐藤さん。

●札幌市子ども会育成連合会
北区支部事務局
TEL.011-736-5531

22号
2017年 発行 P53-54

北区北地区民生委員児童委員協議会
会長　紙谷（かみや） 京子（きょうこ）さん

2004年から始まった「ワンちゃんパトロール」。朝夕の犬の散歩に併せて地域の見守りを行う活動です。その後、子どもたちの下校に時間を変更するなど内容を見直し、2014年に「まもりんパトロール」と名称変更。開始時436人だった参加者は掲載時には802人に。

町内会をパトロール中

ノースウイング バックナンバーより ④

過去のノースウイングの記事を基に、活動内容を振り返ります。
詳しくは、北区ホームページや札幌市の図書館の電子書籍からバックナンバーを読んでみてください。
※団体名や肩書は掲載当時のものです

北区HP

札幌市の図書館

23号
2019年 発行 P67-68

篠路地区コミュニティネットワーク会議青少年部会
部会長　清水（しみず） 和夫（かずお）さん

篠路地域見守り隊は登下校時の見守り、公園パトロールなどの活動成果が認められ、2018年度「防犯功労団体」として全国表彰を受けました。地域の防犯や安全に関して功績が顕著な団体に対して贈られるもので、全国で38団体、そのうち北海道内は2団体が表彰されました。

公園パトロールの様子

23号
2019年 発行 P17-18

鉄西第12町内会
会長　畠（はた） 眞佐子（まさこ）さん

ノースウイング23号にて、『私たちの町内会は、「避難よりも近所同士で助け合う体制」を諦めずに、ゼロベースから「災害発生72時間、地域住民を地域で守る」新たな取り組みを開始します』と防災体制づくりの整備を誓った鉄西第12町内会。住民同士の「近助」の取り組みが広がりました。

鉄西第12町内会で制作した防災マップ

CASE.05
Town planning in North

鉄西連合町内会

都心型町内会で考える町内会活動の新たな役割。福祉の見守りや防災に目を向ける。

鉄西地区は北区で最も小さな連合町内会。かつては「駅裏」と呼ばれ、北大生が暮らすアパートや一戸建て住宅、小さな商店、旧国鉄の施設も残っていましたが、1990年前後から分譲や賃貸マンションが次々と建ち始め、まちの様子は一変。鉄西連合町内会は現在、人口約8000人余りに対し、98%がマンション人口で占められる「都心型町内会」となりました。

マンションの多い地域では町内会の存在意義も薄れつつあります。その一方で、マンション居住者の高齢化が進み、ニーズが高まっているのが福祉です。マンションをいかに地域の福祉活動の中に取り込むか。鉄西連合町内会では、5年前にマンションの管理・運営における悩みの解決を促し、地域に目を向けてもらうための「マンション部」、広報紙発行を通して町内会を身近に感じてもらうことを目指す「広報部」を2年前に設立。都心型町内会としての在り方を考え、取り組んでいます。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

北区、なかでも北大キャンパスがあるＪＲ札幌駅の北側は都市と自然が共存していて、札幌市を凝縮したような街並みが魅力です。北海道新幹線の札幌延伸に伴い、大型改修工事が進められていて、交通手段も商業施設も豊富。駅周辺は道行く人も若者が多く、活気があり、散歩をしていても楽しいです。

鉄西8・3町内会会長
鉄西連合町内会副会長
石田（いしだ） 悦郎（えつろう） さん

鉄西歴16年。民生委員・児童委員の仕事も引き受けていて、地域の実情を知るにつれ福祉活動の重要性を日々痛感している。

「マンションが多い都心の町内会と、一戸建て住宅の多い郊外の町内会とは、組織の在り方を分けて考えるべきだと思っています」と話すのは石田悦郎さん。2007年にＪＲ札幌駅北口のマンションに移り住み、鉄西連合町内会や鉄西地区福まち推進部のほか多数の仕事を担っています。団地とマンションの管理組合理事長、公益社団法人のマンション団体広報責任者も務めていて、「忙しさはありますが、多くの仕事に関わることで今、何が問題かを俯瞰（ふかん）して見ることができます」と言います。

「行政サービスの充実とマンションの増加に伴い、ごみステーションやまちの美化運動など、かつて町内会が担っていた仕事のいくつかは必要とされない場面も多くなってきました。一方で、居住者の高齢化に伴い、徘徊（はいかい）や孤立死などの課題が急速に増えています。都心型町内会は不要となった組織を見直し、福祉の見守りや防災などにもっと目を向けるべきだと考えます」と石田さんは話します。見守りの網の目をもっと細かくし、住民により近づいていく。「この50年の最大の変化は分譲マンションの急増です。孤立化しがちなマンション住民を地域のコミュニティにいかに取り込んでいくか、私たちの組織も見直す必要があります」。

鉄西連合町内会
北区北10条西4丁目1-12
TEL.011-726-5285
（鉄西まちづくりセンター内）

鉄西連合町内会の広報部から年に4回発行している「てっせい」をはじめ、様々な紙媒体を手掛ける石田さん。前職は新聞記者

新川さくら並木連合町内会 交通安全部

故郷でいただいた大きな恩を
新川の地域活動を通して
少しでも返すことができたなら。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

北区には、季節の移り変わりが感じられる環境のあるところがいいなと思っています。「北大のイチョウ並木」は秋もきれいで有名です。私が、一番好きなのは新川の「日本一長いさくら並木」の春でしょうか。花が満開になる時期は圧巻です。見ごろの季節に訪れて、その美しさをぜひ一度直接見てほしいです。

交通安全部長・連町理事・新川まちづくりセンター長ほか
岡本（おかもと） しのぶ さん

奥尻町出身。新川に引っ越して以来25年、地域活動のメンバーとして活躍。夢は地域の冬のお祭りで花火大会を実現させること。

交通安全運動は特に楽しい活動と話す岡本さん。町内会活動に携わるようになった当初、背中を押してくれた恩人が、交通安全運動に情熱を傾けた人でした。「活動に迷ったときは、今でもその方の姿や言葉を思い出します」

連町交通安全部長をはじめ、連町理事、新川第5町内会副会長、防犯パトロール隊の総務など、岡本しのぶさんの地域での肩書は五指に余るほど。街頭での交通安全啓発活動や、学校周辺での子どもの見守り、町内会のお祭りなど、地域活動のさまざまな場面で、中心的な役割を担うリーダーの一人ではありますが、現場では、町内会の役員から子どもまで、誰もが岡本さんのことを「しーちゃん」や「しのぶちゃん」と、親しみを込めて呼びます。「肩書で呼ばれるのは苦手なんです。だって、集まっている人はみんな、地域を良くしたいとか、この場を良くしたいという一心で活動している訳でしょう。そこに偉いとか偉くないとか関係ないもの。みんな気持ちは一緒ですから」と岡本さんは、はつらつとした笑顔を見せます。

岡本さんのモットーは、活動の場でみんなが楽しくなる雰囲気作りをすること。そのために何をすればいいかを常に考えてきました。

それは制限の多かったコロナ禍でも同じです。規模を縮小させたり、密にならない工夫を凝らしながら、人と直接触れ合うことの難しいこの苦しい期間に、少しでも心休まる時間を持ってもらおうと、年中行事を休まず開催させました。「周りの助けがあったからこそできたこと。本当に私は人に恵まれていると感じます」。

朗らかにフットワーク軽く、地域のために動き回る岡本さんのボランティア精神の源には、故郷・奥尻町での震災の経験があるといいます。大切な人やものを数々失ったつらい経験でしたが、「全国から集まったたくさんのボランティアの人に感謝してもしきれないほどお世話になった」と当時を振り返ります。その大きな恩を、いま新川で地域活動に携わることで、ほんのわずかでも返せているような気持ちだといいます。

2022年10月からは、新川まちづくりセンター長にも就任。さらに肩書が増えた岡本さんですが、スタンスは今までとまったく変わりません。「調和を取りながら、みんなで仲良く力を合わせてやっていく。周りの助けがあってこそ、楽しく活動ができると思っていますから」。

太平百合が原交通安全母の会

手作りの「カエルのマスコット」に願いを込めて。
地道な交通安全活動を積み重ねながら、
子どもたちの笑顔を守っていきたいです。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

北区はとても広いので、エリアによって景色が変わるのが魅力です。私が暮らす太平百合が原地区は、のんびりとした雰囲気で、人と人とのつながりが変わらず残る温かな地域。百合が原公園という大きな公園があり、JR の沿線上なので利便性もあり、居心地の良い地域です。

太平百合が原交通安全母の会・太平百合が原連合町内会
会長　庵跡（あんせき） 邦子（くにこ） さん

北区初の女性連合町内会会長としても活躍。太平百合が原夏まつりや、フラワーロードの花植えなど、様々な地域活動に貢献している。

太平百合が原交通安全母の会の皆さん。新入生にプレゼントするカエルのマスコットは会員による手作りです

3つの幹線道路が東西南北に走る太平百合が原地区は車の交通量が非常に多い地域です。

「昔は空き地も多く、車通りもまだ少なかったんですけどね」と話すのは、太平百合が原交通安全母の会の会長である庵跡邦子さん。結婚を機に同地区に引っ越してきて50年。PTA活動の延長として関わり始めたという1983年発足の交通安全母の会は、1986年に会長を任されて以来、2022年で38年目を迎えました。

現在、会員は24人で、年に8回の街頭啓発や地区全体の決起集会、マスコット作りなどが主な活動内容。毎年、太平小、太平南小、百合が原小の新入生約300人に「無事に帰る」という祈りを込めた手製の「カエルのマスコット」をプレゼントしています。

「太平南小では毎年、入学式で子どもたちに直接交通安全を呼び掛けます。大人になった卒業生が〝カエルのマスコットを小学生の頃にもらいましたよ〟と、声を掛けてくれたことがあって、とてもうれしかったですね」

子どもたちは地域の未来を担う宝物。時間を見つけては自主的に自転車に乗って近隣のパトロールを行うこともあると言います。

こうした地道な努力が結実し、2022年4月に太平百合が原地区の死亡交通事故が2000日連続ゼロを記録。北区から連合町内会に対して表彰状が贈られました。

「地域の皆さんと共に3000日を目指していきたいです」と次の目標に向かって決意を新たにする庵跡さん。悲しい事故を無くし、たくさんの笑顔が増えるようにと祈りを込めて、優しいまなざしでまちを見守り続けています。

太平百合が原交通安全母の会
北区太平8条7丁目2-1
TEL.011-771-9180
（太平百合が原まちづくりセンター内）

私が思う、北区の魅力・好きな場所

拓北・あいの里地区は、北区の中でも田園風景が広がるエリア。どこを歩いていても緑が目に入ります。利便性もあって自然もあるのが気に入っている理由です。近所をお散歩していると、最近はまちの中の樹木についつい目がいってしまうんですよ（笑）。

CASE.05
Town planning in North

拓北・あいの里連合町内会

「人と緑が調和する、やさしく支え合うまち」
そんなイメージフレーズの実現を目指して。
北区で一番新しい連合町内会でまちづくり。

拓北・あいの里連合町内会　北区連合町内会運営協議会
会長　長尾（ながお） 由紀子（ゆきこ） さん

連合町内会の会長を務めながら、民生委員を20年以上続けた。手先の器用さを生かし、さまざまなクラフト作品を作る多彩な面も。

2018年7月に行われた「あいの里あいあい祭」で開会の挨拶をする長尾さん

「大都会の札幌にあって、のどかな田園風景も見られる。そこが、お気に入りです」と話すのは、拓北・あいの里連合町内会で5代目の会長として活躍する長尾由紀子さん。30年ほど前、転勤族だった長尾さん一家は、子どもたちの教育環境も考え、あいの里に居を構えました。「〝あいの里〟という名前の響きも素敵ですし、緑が多くて学校や病院、駅も近い。暮らしやすそうなまちだと感じました」と振り返る長尾さん。以来、「あいの里あいあい祭」実行委員や民生委員、町内会長などを務め、積極的にまちづくりに携わってきました。

2009年から連合町内会に関わるようになり、2022年度からは、連合町内会の会長を務めています。拓北・あいの里連合町内会は、同地区に51の町内会が存在する北区で11番目に誕生した一番新しい連合町内会です。

普段は、地域の皆さんがより住みやすい環境をつくるための活動をしています。「ご高齢の住民も増えているので、JR駅のバリアフリー化が進むよう、関係機関に相談やお願いをしてきました」と長尾さん。その活動が実り、エレベーターやトイレに手すりが設置されるなど、車椅子の方にも優しい駅となりました。また、駅前での自転車の散乱防止や地域内の危険木パトロールなど、きめ細やかな活動も大切にしています。

長尾さんは会長になって以降、こうした活動と並行して、社会福祉協議会との連携を深めたり、北区の連合町内会長の会議や札幌市との意見交換会へ出席したりするなど、外部との橋渡し役も担っています。「地域の声を聞いていると、次々に課題も見えてきます」と長尾さん。「この地域の活性化のため、何ができるのか。線路で隔てられたあいの里地区・南あいの里地区の往来を容易にするには何が得策か。私たちだけでは解決できないことは、外部の方々にも相談していかなくては」と、意欲を見せます。

「ここは福祉施設も多く、誰にとっても住みやすいまち。優しい人たちが暮らす、素敵なまちです」と長尾さんははほ笑みます。「地域に関わってたくさんの仲間ができました。大変なこともみんなで汗を流すと、充実感に変わります。人との出会いが私の宝です」。

ノースウイング バックナンバーより⑤

過去のノースウイングの記事を基に、活動内容を振り返ります。
詳しくは、北区ホームページや札幌市の図書館の電子書籍からバックナンバーを読んでみてください。
※団体名や肩書は掲載当時のものです

北区HP　札幌市の図書館

18号 2011年 発行 P38-39

新琴似双葉第五町内会

会長　高橋（たかはし） 博章（ひろあき）さん

掲載時の10年ほど前から光の持つ魅力に興味を持ち、高橋さんの自宅をイルミネーションで飾りつけたのが防犯イルミネーションのはじまり。イルミネーションの点灯式には地元の保育園の子どもたちと保護者、地域住民が大勢参加し、大成功させることができました。

点灯式に集まった地域の皆さん

20号 2013年 発行 P21-22

鉄西連合町内会 女性部

部長　木村（きむら） 公子（ともこ）さん

2012年、札幌市環境局が行っている「防ごう地球温暖化～エコライフのすすめ～」という出前講座を女性部で開催。地球温暖化の説明、身近な家庭製品の消費電力や具体的な節電方法などを知ることができました。エコライフに関心ある人が多く、約30人の参加がありました。

講習会の様子

23号 2019年 発行 P19-20

麻生まちづくり協議会

会長　大門（だいもん） 隆司（たかし）さん

2015年11月に麻生まちづくり協議会が中心となって設置した「麻生地区自主防災・減災推進協議会」。2018年度は、グループ別に勉強会を行なった他、藤女子大学食物栄養学科の協力を得て、「家庭でできる防災食講習会」を開催。災害時の食に関する知識を学びました。

藤女子大学・村田まり子さんの講話

18号 2011年 発行 P26-27

太平百合が原連合町内会

副会長　鈴木（すずき） 誠（まこと）さん

子どももお年寄りも心穏やかに暮らせる環境づくりを目標にスタートした、「花とみどりのまちづくり」。隣り合う町内会が協力して、通りごとにマリーゴールド、サルビア、アマなど花の種類を統一して作ったフラワーロードは、総延長が3キロにも及ぶものとなりました。

太平2-1のマリーゴールドロード

新川さくら並木クリーン作戦

太平百合が原フラワーロード作り

CASE.06
Town planning in North

市立札幌豊明高等支援学校

ぬくもりある木の案内板や名札で親しみやすい役所づくりに貢献 地域とつながり成長する生徒たち。

市立札幌豊明高等支援学校は、知的障がいのある生徒を対象にした職業学科の特別支援学校です。

学科はクリーンサービス科・流通サービス科・リサイクルサービス科・工芸ものづくり科・服飾ものづくり科の5つ。地元のリサイクル企業と提携してOA機器の解体や分別をしたり、病院やホテルで使う枕カバーを受注製作したりするなど、各学科の専門性を生かし、生徒が職業人として自立できるように実践的な作業学習を行っています。

工芸ものづくり科が取り組んでいるのは、窯業と木工による製品作りです。木工部門では2021年、北区役所の篠路出張所の増築に合わせて、木製の窓口案内板や職員用ネームプレートなどを製作し、寄贈しました。木のぬくもりを感じる親しみやすい雰囲気の施設になったと利用者に好評で、同年、北区長から感謝状を贈呈されました。

地域とのつながりを大切に育むこの学校で、生徒たちは伸び伸びと成長しています。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

あいの里にある、大きな三日月湖を形成している茨戸川の風景が好きです。篠路には古い歴史があり、かつては藍の栽培が盛んだったと聞いています。あいの里の地名の由来もそこにあるのだとか。あまり知られていないようで、もっと多くの人に知ってほしいですね。

市立札幌豊明高等支援学校
工芸ものづくり科 木工部門担当
教諭　皆川（みながわ） 康志（やすし） さん

手稲区在住。北海道教育大学岩見沢校卒。中学校美術教諭を経て特別支援学校教諭に。2016年、市立札幌豊明高等支援学校に着任。

木の香りが漂う木工室の壁には、2021年、北区長から贈呈された感謝状が飾られていました。ふと見ると、担当教諭の皆川康志さんの胸にも木製のネームプレートが。「ネームプレートは生徒が端材にレーザーで文字を刻印して作っています。実はこれをたまたま篠路出張所の所長さんが見て、案内板とネームプレート作りのお話をいただいたんですよ」。

この寄贈が縁となり、新たな交流も生まれました。北区土木センターが木材を提供してくれることになったそうです。「入手困難なイヌエンジュをはじめ、シナなども届けてくれました。生徒にはできるだけ多くの木に触れてほしいので、助かりますね。それぞれの木の特性や良さを学んで、製品作りに生かしてもらえたら」と語ります。

授業では、一つの作業に没頭したい生徒やレーザーが得意な生徒など、一人一人の個性に合わせて、製作物や木の種類を変えているそう。難しい作業に挑戦して成功した生徒のうれしそうな顔を見るのが、皆川さんにとって最高の瞬間です。「生徒はいろいろなことを吸収し、未来に向かってどんどん変わっていきます。地域との交流もいい社会勉強になると思いますね」。

市立札幌豊明高等支援学校
北区西茨戸4条1丁目1-1
TEL.011-774-2222
https://www.homei-h.sapporo-c.ed.jp
※コロナ禍のため、一般の人を対象とした販売会は現在休止しています。

窯業部門の生徒が作業学習で作るカッパ七輪（左）とシロクマ七輪。校内向けの販売会でもすぐに完売する大人気の製品です

CASE.06
Town planning in North

札幌創成高等学校　太鼓部

感動を与える演奏で太鼓の魅力を届けたい。身体と心に響く迫力いっぱいの音とパフォーマンス。

放課後の練習場からは、波動が身体を突き抜けるような力強い太鼓の音に加えて、時折、威勢のいい掛け声も聞こえてきます。その音を奏でているのは札幌創成高校太鼓部。高校の郷土芸能大会（※）で毎年全国大会に出場し、STVの人気番組で紹介もされるほど実力派の部活です。日々の練習のほかにも、月に1～2度、太鼓のプロプレイヤーによる指導を受け、さらに技術を磨いて質の高い演奏を目指して励んでいます。

その実力から、北区の成人式やお祭りなど、校外での演奏を依頼されることも多く、迫力いっぱいのパフォーマンスが、観客を引きつけてきました。コロナによる自粛を経て、2022年から校外に招かれての演奏も少しずつ再開されています。10月末に東京で開催された全国大会後に3年生が引退し、現在は2年生10人、1年生16人の計26人で活動中。これからも部員一丸となって真剣に太鼓に向かっていきます。

（※）全国高等学校総合文化祭　郷土芸能部門

私が思う、**北区**の魅力・好きな場所

自然がいっぱいなところがいいと思うし、のどかで落ち着いた雰囲気が感じられるのが魅力。人口が多いので、活気にあふれている感じもします。（池谷美友副部長）

札幌創成高等学校　太鼓部

同好会を経て1992年に創部。2006年から全国大会に連続出場する強豪校で、テレビなどメディアで何度も紹介されている。

部を代表してインタビューに答えてくれたのは、2年生の河合ひなた部長と池谷美友副部長。2人とも、入学するまで太鼓は生演奏もほとんど聞いたことがない初心者でした。「部の見学会に行ったときに、先輩たちが見せてくれた演奏の迫力にすごく感動したんです」。内臓まで震えるような太鼓の音にすっかり魅了され、すぐに入部を決心しました。バチの握り方や手首の使い方、腕の上げ方、たたく角度などで繊細に音を変化させる太鼓。「入部して2年経ちますが、理想の音を出せているとはまだ思えません」と笑う2人。それでも基礎練習を地道に重ね、プロからの指導を受けることで、少しずつ自分の出す音が変わってきたと感じているそう。

校外での演奏も少しずつ再開されはじめた今、入学時からコロナ禍だった部員にとって、出張演奏は初体験。「緊張もあったけど、楽しみの方が強かったです」。設備の整わない舞台も少なくないため、太鼓の配置やたたき方の調整も当日現場で行います。「6月に行われたテイネトレイルは、屋外だったのでお互いの音が聞こえにくくて大変でした」と苦笑いしますが、苦労話もどこか楽しそう。お客さんのダイレクトな反応が喜びだったと話します。9月10日には、北区の「認定こども園はなぞの」で園児たちを前に演奏。音に驚いて最初は耳をふさぐ子もいましたが、最後まで真剣に聞いてくれたそう。「気持ちの伝わる演奏をお届けしたい。いろいろな場所でたたく機会をいただけたらうれしいです」。11月の全道大会で2023年の全国大会出場を決め、さらに気合が入っています。

リズムや音だけでなく、振り上げる腕の高さや目線も重要。練習ではお互いを厳しくチェックしながら、さらなる高みを目指します

CASE.06
Town planning in North

SIT Band - 札幌国際情報高校吹奏楽部

観客と演奏者がひとつになって
踊る！　歌う！　楽しむ！
ダンプレでたくさんの笑顔をつくりたい。

ダンプレとは、ダンスをしながら演奏をする吹奏楽のパフォーマンス。その誕生の地は北海道であり、札幌国際情報高校の吹奏楽部で現在監督を務める小出學先生が生みの親でもあります。同部も2013年からこのプレイスタイルを取り入れて活動し始めました。ステージと客席を一つにまとめ、躍動感にあふれる演奏は、多くの人の心をつかみ、年間およそ80公演を行うほどの人気バンドになっています。活動は市内にとどまらず、北海道、全国にまで及び、2018年には北海道庁から派遣要請を受けホノルルでも演奏。もちろん北区のイベントや施設などのステージも踏んでいます。

社会貢献活動にも多数かかわり、2019年からUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）のチャリティーにも参加。2022年は、ウクライナの民謡を盛り込んだプログラムで、例年にないたくさんの支援金を集めました。演奏会の予定などは部活の公式HPに掲載しています。

私が思う、北区の魅力・好きな場所

高校に入って初めて北区に足を踏み入れました。最初に感じたのは自然がたくさんあること。そして、人が温かいと感じること。何度も演奏を見に来てくれたり、気軽に声をかけてくれたり、そういう温かい反応が練習のモチベーションにもなっています。（川岡義睦さん）

SIT Band - 札幌国際情報高校吹奏楽部

Hokkaido Sapporo Intercultural and Technological high school の頭文字をとってSIT Band。部員150名ほどの大所帯で活動中。

SIT Bandの運営主体は部員である生徒たち。監督である先生はいるものの、練習スケジュールや公演の選曲、会場手配などすべてが生徒の手で行われます。「ダンス担当、ステージマネージャー、総務など15の係があって、それぞれ部員たちで考え、協力し合って練習内容や活動を組み立てています」と話すのは、キャプテンの川岡義睦（かわおかよしちか）さん。

熱気を帯びた練習風景からも、部員が互いに話し合い、それぞれ責任を持って部に携わっていることが伝わってきます。「独りで何かをしようとするのではなくて、みんなで助け合って一つの物事を成功させていくことが大事なんだと、キャプテンになって学びました」と川岡さん。

コンクールで競うためではなく、観客とともに楽しむことを一番の目的にして活動するSIT Band。聴く人を飽きさせないように考えながら、毎回のステージを練り上げていきます。「観客に合わせた選曲だけでなく、演奏前にお客さんに声を掛けたりして、できるだけリラックスして聴いていただけるように工夫もしています」。

中学3年の時に、初めてSITの演奏動画を目にして一気にその虜になり、この部に入るために進路を決めたという川岡さん。観る側から演奏する側に立ち位置が替わって、ますますダンプレに魅了されているといいます。「聴いてくれている人が笑顔になって楽しそうにしていると、演奏している僕らも自然と笑顔になるんです。どんどん笑顔が増えていくところがいいなと思っています。ぜひ生の演奏を聴いていただけたらうれしいです」。

観客の前で演奏できない苦しさも味わったコロナ禍。イベントも増え、今は生演奏を聴いてもらえる喜びを再確認しているそう

みなさまへ

令和４年、札幌市は市制施行 100 周年、そして北区は誕生から 50 周年という大きな節目を迎えました。

「ノースウイング」では、平成６年の創刊以来 30 年近くにわたり地域のまちづくりの取り組みを紹介してまいりましたが、令和２年から続く新型コロナウイルス感染症により、今なお、地域の活動や交流には少なからず影響が及んでいます。

そのような中、区制施行 50 周年記念号として発刊した本誌では、これまでのまちづくり活動を振り返るとともに、コロナ禍にあっても、地域において熱心に活動を続けている「ひと」や「団体」に光を当て、その「思い」を発信することを試みました。本誌には、多くの方々がまちづくりの種をまき、そして育んでいる様子が生き生きと描かれています。

北区の新しい 50 年の始まりを迎えた今、本誌が、みなさまにとって、地域への愛着、そこに暮らす人々への思いを見つめ直すきっかけとなることを願っております。そして、この冊子を手に取ったみなさまの心の中に、“自分も何か種をまいてみたい、育ててみたい”そんな思いが芽生えたならば、これに勝る喜びはありません。

結びになりますが、本誌の取材や編集にご協力いただいたすべてのみなさまに、心から感謝を申上げます。

札幌市北区長　佐々木（ささき）　美香子（みかこ）

令和４年 12 月

ノースウイング バックナンバーより ⑥

過去のノースウイングの記事を基に、活動内容を振り返ります。
詳しくは、北区ホームページや札幌市の図書館の電子書籍からバックナンバーを読んでみてください。

※団体名や肩書は掲載当時のものです

北区HP

札幌市の図書館

18号　2011年 発行 P06-07

NeoLos（ネオロス）幌北

伊藤（いとう） 翔平（しょうへい）さん

正式な団体名は「学生と地域で考えるまちづくり会」といい、ちょっと堅いイメージがあります。そこで学生たちで話し合い、「NeoLos（ネオロス）幌北」という愛称を考えました。学生時代だけでも幌北に「根を下ろし」、地域と関わっていきたいという意味が込められています。

子どもたちと力を合わせて作った雪像

15号　2008年 発行 P38-40

鉄西まちづくり学生推進委員会

会長　水戸（みと） 崇裕（たかひろ）さん

YOSAKOIサークルのメンバーとして秋祭りを開催していましたが、「自分たちは、まちづくりをする学生メンバーである」という原点に立ち返り、「鉄西まちづくり学生推進委員会」を設立。鉄西エリアにおける地域行事に、より積極的に関わっていくことになりました。

掲載時の学生メンバー

北大のイチョウ並木

「わたしだけの北区、見つけた。」作品募集 02

あなたしか知らない北区の一面を表現した作品を募集し、広報さっぽろ（北区版）などで、新たな北区の魅力を伝えました。

「朝焼けのポプラ並木」小野高秀さん

「茨戸川での朝練」大槻誠章さん

動画版

「これならできる！朝ごはんレシピ集」 03

「朝ごはんは健康な1日の第一歩！」朝食習慣をつけてもらうための冊子「朝ごはんレシピ集」をより活用してもらえるよう、学生と協力して動画版にしました。

朝ごはん
レシピ集
（動画イメージ）

朝ごはん
レシピ集
（冊子）

04 区制 50 周年を彩る事業

人通りの多い北 24 条商店街周辺にコキアを植えた特別なプランターを設置し、皆さんの歩行空間に彩りを添えました。

健康ウオーキング「チャレンジ 50」 05

50km のウオーキングにチャレンジ。特定の日に拘らない、区民の都合のいい日に参加できるように工夫し、一人では難しくても、誰かと一緒なら…そんな地域交流の再開も目指しました。

＼区制 50 周年／ 事業紹介

区制施行 50 周年を記念して行われたイベントや事業を紹介します。

SIT Band-札幌国際情報高校吹奏楽部

ぽっぴい フェスティバル 01

百合が原公園で、三年振りに開催された区民まつり「ぽっぴいフェスティバル」。区制50周年の2022年は、例年以上に充実した内容に。一万人を超える来場者を迎え、息の合った吹奏楽のステージや迫力満点のYOSAKOIの演舞などで、大いに盛り上がりました。

北海道大学連合吹奏楽団

北区の隣町
当別町の「とべのすけ」もやって来てイベントを盛り上げてくれました！

新琴似天舞龍神

歴史

区制50周年

Chronology of Kita-ku
北区のあゆみ

PHOTO MEMORIES

2022
区制施行50周年を迎える

2009

「北8条線の亜麻」

当別町との連携事業
「亜麻のフラワーロード」
開始

1986

モニュメント「花と輪と和」

「'86さっぽろ花と
緑の博覧会」が
百合が原公園で開催

1971

「地下鉄南北線 開通式」
（札幌市公文書館所蔵）

地下鉄南北線（真駒内～北24条）
が開業

1897

新琴似歌舞伎（田中松次郎）

田中松次郎らが歌舞伎芝居
を上演（新琴似歌舞伎の創始）

1880

「清華亭」（明治13年頃）

偕楽園内に貴賓の接待所として
「清華亭」を建築

令和 2019-
平成 1989-2019
昭和 1926-1989
明治 1868-1912
安政 1855-1860

2022 新川まちづくりセンター自主運営化
2021 篠路出張所の増築庁舎が完成
2020 新型コロナウイルス感染症が各地で流行
2019 北区まちづくりキャラクター「ぽっぴぃ」の誕生
内閣府特命担当大臣表彰を受賞
2017 「学生と地域で考えるまちづくり会」（通称NeoLos幌北）が
「新琴似歌舞伎復活20周年記念公演」開催
2017 「篠路歌舞伎保存会30年のあゆみ」発行
2016 北区まちづくり協議会設立
2010 麻生まちづくりセンター自主運営化
2010 麻生まちづくりセンター自主運営化
2002 新川さくら並木の植樹開始（2000年完成）
1996 新琴似歌舞伎復活公演開催
1990 「北区歴史と文化の八十八選」選定
1998 新川通地下鉄南北線延長工事のため、市電の鉄北線全面廃止
1985 篠路コミュニティセンター開館、篠路歌舞伎が復活
1984 北区民センターで藍染講習会開催
1983 百合が原公園開園
1980 あいの里団地の造成開始
1978 地下鉄南北線を麻生まで延長
1974 地下鉄南北線延長工事のため、市電の鉄北線全面廃止
1971 鉄北線、西4丁目線（北24条～三越前）が廃止
1964 市電鉄北線（北6条西5～北18条西5）が開業
1963 市電鉄北線（北27条～麻生町）が開通
1955 琴似町・札幌村・篠路村が札幌市と合併
1934 札沼線（札幌～当別間）が開通
1927 市電鉄北線（北6条西5～北18条西5）が開業
1903 札幌農学校が北8西5の新校舎に移転
1901 篠路村若連中が、烈々布神社に獅子舞を奉納（篠路獅子舞の創始）
1891 麻生地域で亜麻繊維工場が操業を開始
1871 札幌最初の公園「偕楽園」を開設
1859 早山清太郎が、荒井金助の命を受け荒井村（のちのシノロ村）の
地所選定調査を行い、同地を農耕適地と選定（篠路村の開基）

マラソンコースに設置された銘板

東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会
のマラソンコースとして、北区が世界へ発信される

2002

サンプラザを会場に行われた伝統芸能公演

区制30周年
「北区文化芸能フェスタ」開催

1972
政令指定都市移行に伴い
北区が誕生

「北区役所」（昭和47年頃）（札幌市公文書館所蔵）

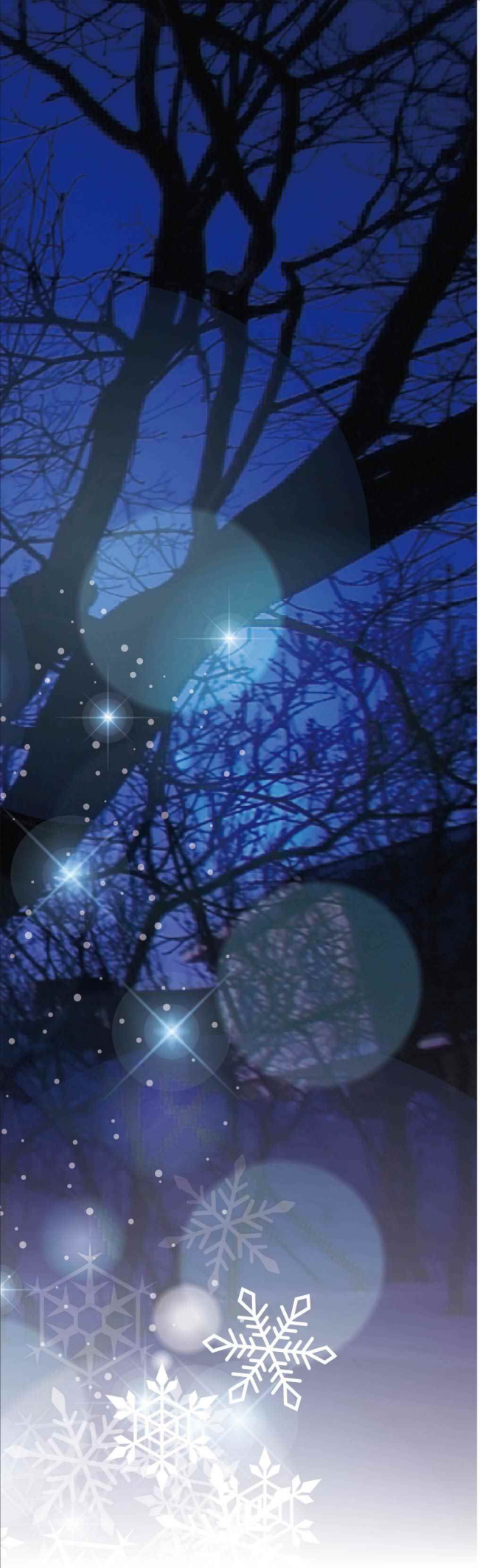
1902
篠路村若連中が、烈々布神社
例祭で狂言〈そこが江戸っ子〉
を奉納（篠路歌舞伎の創始）

篠路歌舞伎（大沼三四郎）

1882

滝本五郎

徳島県人滝本五郎らが「興産社」を
組織して篠路に入植（翌年から藍を栽培）



札幌市北区役所

SAPPORO

ノースウイング 第24号・25号合併号
区制施行50周年記念号
2022年12月発行

編集・発行　札幌市北区市民部地域振興課
〒001-8612　札幌市北区北24条西6丁目
TEL011-757-2407
https://www.city.sapporo.jp/kitaku/

さっぽろ市
01-001-22-2284
R4-1-160